

資料編



資料 1 用語説明

《あ行》

◎IoT

Internet of Things の略で「モノのインターネット」と呼ばれるもの。自動車、家電、ロボット、施設等のあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

◎AI

Artificial Intelligence の略で人工知能のこと。

◎SDGs（持続可能な開発目標）

Sustainable Development Goals の略で「持続可能な開発目標」のこと。2030 年を期限とし、先進国を含む国際社会全体の 17 の目標 169 のターゲットで構成され、「誰一人取り残さない」を理念とした国際社会における共通目標。

《か行》

◎カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。2020 年 10 月の第 203 回臨時国会で、2050 年までに、温室効果ガスの排出が全体としてゼロになる社会の実現を目指すことが宣言された。

◎家族経営協定

家族農業経営において、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境等について、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるもの。

◎環境こだわり農産物

化学合成農薬および化学肥料の使用量を通常の 5 割以下に削減し、かつ、琵琶湖および周辺環境への負荷を削減する技術で栽培され、滋賀県が認証した農産物。

◎環境保全型農業

農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業のこと。

◎GAP

Good Agricultural Practices の略で農業生産工程管理のこと。農業者自らが農作業の点検項目を決定し、点検項目に従い農作業を行い、記録し、記録を点検・評価して、改善点を見だし、次回の作付けに活用するという一連の農業生産工程の管理手法。

◎草津農業振興地域整備計画

「農業振興地域の整備に関する法律」の規定に基づき策定し、農用地区域（青地）など、土地利用上の区域指定を行い、優良な農地を確保・保全するための計画。

◎グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

◎経営所得安定対策

経営が不安定な農業者を支援するため、麦・大豆の販売価格と生産コストの差額を直接交付する制度対策（ゲタ対策）と、米、麦、大豆の価格が下落した際に収入を補てんする保険制度的な対策（ナラシ対策）。

◎後期重点型施肥栽培

基肥施用量を減らし、残りの多くを1月頃に分けて施用し、莖立期または出穂15日前に増施する施肥法のこと。基肥重点施肥よりも後半の生育が改善され多収入となる。

《さ行》

◎GIS

Geographic Information System の略で、コンピュータ上で様々な地理空間情報を重ね合わせて表示するための地理情報システムのこと。

◎資源循環型農業

土づくりの際に、前作のすき込みや残さたい肥を投入する等、有機資源を循環させながら生産を行う農業のこと。

◎水田活用の直接支払交付金

水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図るもの。

◎スマート農業

ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、機械の自動化、ロボット化、高度環境制御技術などの新しい技術により、超省力や高品質な農産物生産を実現する新たな次世代農業。

◎世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策

滋賀県における「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づく多面的機能支払交付金制度の名称。農業の持つ多面的機能（国土保全、水源かん養、自然環境の保全、景観の保全等）の維持・発揮のため、地域活動や営農活動に対して行われる支援対策。

《た行》

◎脱炭素社会

温室効果ガスの排出が全体としてゼロとなる社会。

◎多面的機能

国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能。

◎たんぼのこ体験事業

子どもたちが農業への関心を高め、理解を深めるとともに、生命や食べ物の大切さを体験的に学べるよう、児童自らが「育て」「収穫し」「食べる」という一貫した体験学習をする事業。

◎地産地消

地元でとれた生産物を地元で消費すること。食料に対する安全志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取組として期待されている。

◎土地改良施設

農業用排水施設、農業用道路、その他農業をするにあたり有益、または農村での生活を快適にする施設。

《な行》

◎軟弱野菜

植物体が軟弱で、外部からの衝撃で傷つきやすく、収穫物は軽量・小形で、常温下では日光にさらされたり風にあたると急速に鮮度を失い品質が低下する野菜。ほうれん草やみずな、こまつな等がこれにあたる。

◎担い手

人・農地プランに位置づけられている地域の中心となる経営体のこと。本市では、認定農業者や集落営農組織、新規就農者等が位置づけられている。

◎認定農業者

「農業経営基盤強化促進法」に基づいて、自主的に農業経営改善計画を作成し、市町村から認定を受けた農業者。地域農業の担い手として、農地利用・資金・税制面等の支援を受けることができる。

◎農業振興拠点施設

地域農業が抱える様々な課題や問題点を解消し、地域農業を振興していくための拠点施設のこと。地場農産物の加工及び販売による地産地消や食育の推進、農地の荒廃化の防止、新たな地域産業の創出や農業に対する理解を深めたり、生産者と消費者の交流促進による観光振興の強化などにつなげる。

◎農地中間管理機構

高齢化や後継者不足等で耕作を続けることが難しくなった農地を借り受け、認定農業者や集落営農組織等の担い手に貸し付ける公的機関のこと。

◎農地の集積・集約化

農地を所有し、又は借り入れること等により、利用する農地面積を拡大し（集積）、農地の利用権を交換すること等により、農作業を連続的に支障なく行えるようにする（集約化）こと。

◎農用地区域

農業振興地域内において、今後将来に渡って農業上の利用を確保すべき土地として市町村が農業振興地域整備計画で用途（農地、採草放牧地、農業用施設用地等）を定めて設定する区域。（いわゆる青地という。）

《は行》

◎琵琶湖バイオマスプロジェクト

下水汚泥の有効利用に併せ、様々なバイオマスを混合処理し、エネルギーの創出と新たな地域バイオマスの循環を構築する事業。

《や行》

◎野菜残さ

野菜の出荷時に除かれる部分や、商品化できない野菜のこと。

《ら行》

◎利用権

「農業経営基盤強化促進法」に定められている農業上の利用を目的とする農用地の賃借権、使用貸借権等のこと。

◎6次産業化

生産（1次産業）だけでなく、製造・加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）までを手がけ、所得増や地域活性化を目指す取組。

資料2 アンケート調査・ヒアリング調査

I. アンケート調査の概要

1. 調査目的

本市では、農業者の高齢化や都市化に伴う農地の減少などの課題に対応するとともに、将来にわたって持続可能な農業を実現するために、「第2次草津市農業振興計画」の策定に取り組んでいます。本調査は、この計画の策定にあたり、市民の方から農業に関する御意見をお伺いし、また、市内の農業者の方から農業の実情や悩み、今後の方針等の御意見をお伺いし、新しく計画を策定するための基礎資料として利用するために実施しました。

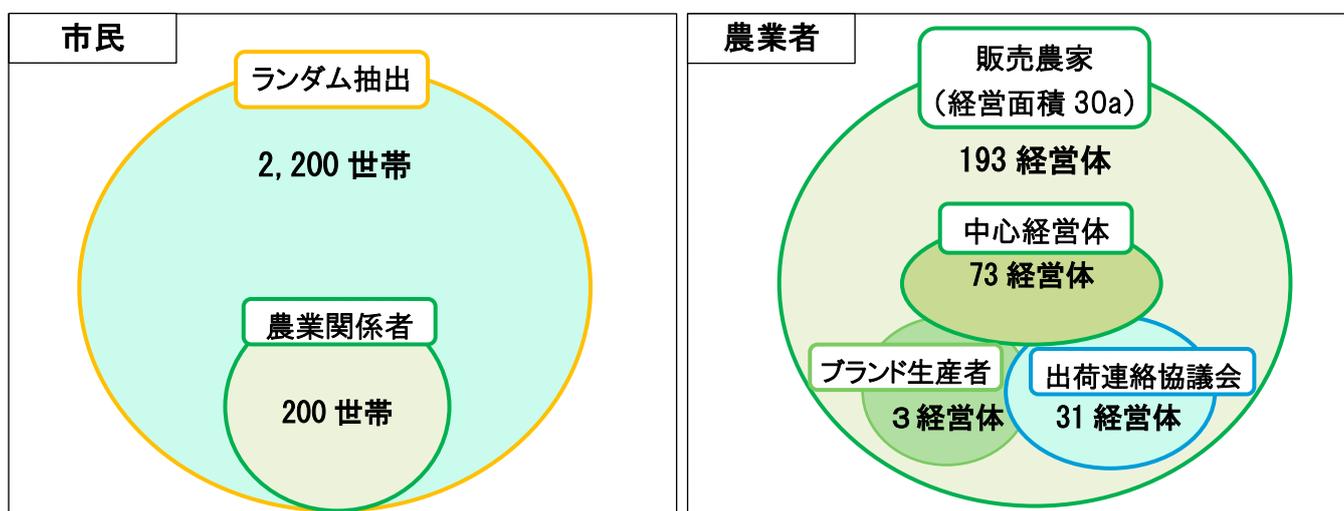
2. 調査設計・回収結果・抽出方法

	種類	調査対象	対象者数	回収数	回収率
調査対象と回収結果	市民アンケート	18歳以上の市民	2,000人 (無作為抽出・農業従事者を除く)	939件	47.0%
	農業者アンケート	市内の農業者	300人 (無作為抽出)	169件	56.3%
調査期間	令和2年12月30日～令和3年1月5日				
調査方法	郵送配布・郵送回収				

◆対象者抽出の考え方

市民アンケートの対象者は、住民基本台帳データより、2,200人（世帯主）をランダムに抽出し、農家台帳より経営面積、貸付面積を有する農業関係者を抽出し、2,200人より除外（118人）した上で、2,000世帯超過分を除外しました。

農業者アンケートの対象者は、「中心経営体、出荷連絡協議会会員、ブランド生産者、販売農家（経営面積30a以上）」とし、販売農家については、農家台帳よりランダムに抽出しています。各区分で重複する農業者については、上記の順番に優先して区分けしています。



3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 図表等の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。各設問の図表上の「MA%」「2LA%」等との表記は、回答選択肢の中からあてはまるものを複数選択する場合（すべてに○、2つまで○等）を示しています。これ以外の場合は、特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
- 「前回調査」とあるのは、平成21年3月に策定した「草津市農業振興計画」のために本市が実施した調査です。

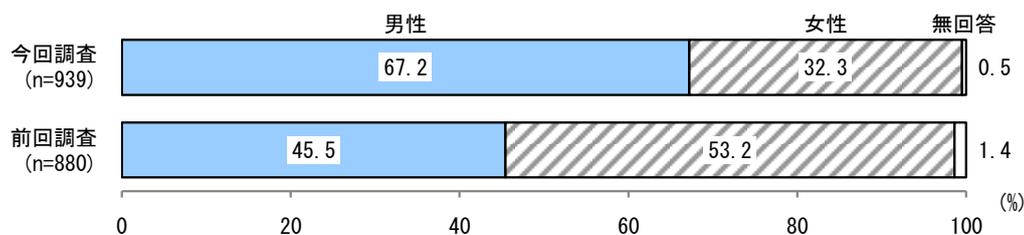
Ⅱ. アンケート調査結果

Ⅱ－1. 市民アンケート

1. 回答者の属性

〔1〕性別

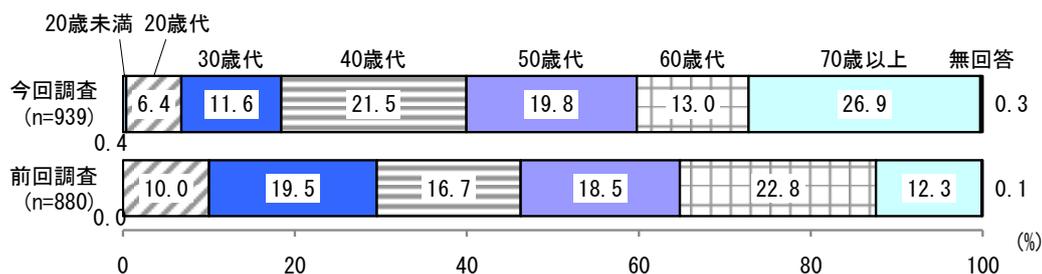
【性別（前回調査との比較）】



性別は、「男性」が67.2%、「女性」が32.3%となっている。

〔2〕年齢

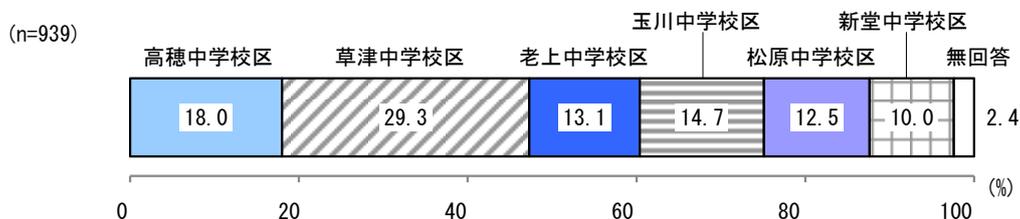
【年齢（前回調査との比較）】



年齢は、「70歳以上」が26.9%と最も多く、次いで、「40歳代」が21.5%となっている。

〔3〕居住地

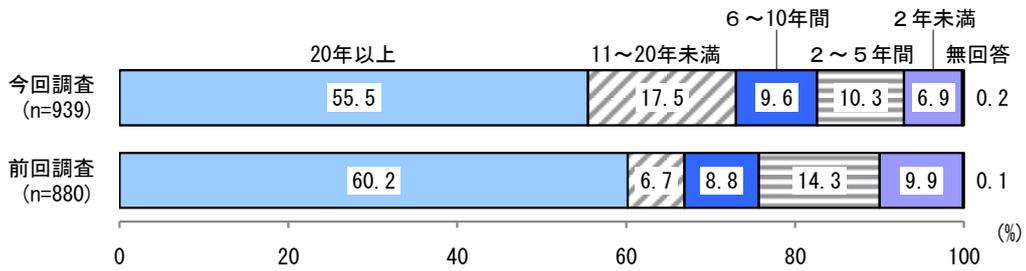
【居住地】



居住地は、「草津中学校区」が29.3%と最も多く、次いで、「高穂中学校区」が18.0%となっている。

〔4〕草津市での居住年数

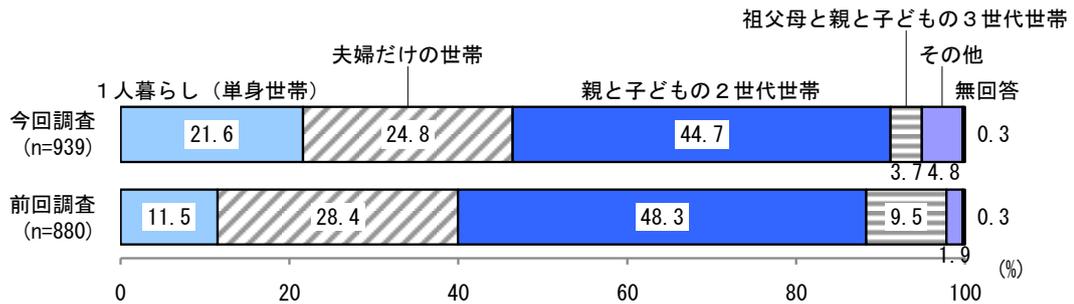
【草津市での居住年数（前回調査との比較）】



草津市での居住年数は、「20年以上」が55.5%と最も多く、次いで、「11~20年未満」が17.5%となっている。

〔5〕家族構成

【家族構成（前回調査との比較）】



家族構成は、「親と子どもの2世代世帯」が44.7%と最も多く、次いで、「夫婦だけの世帯」が24.8%、「1人暮らし(単身世帯)」が21.6%となっている。

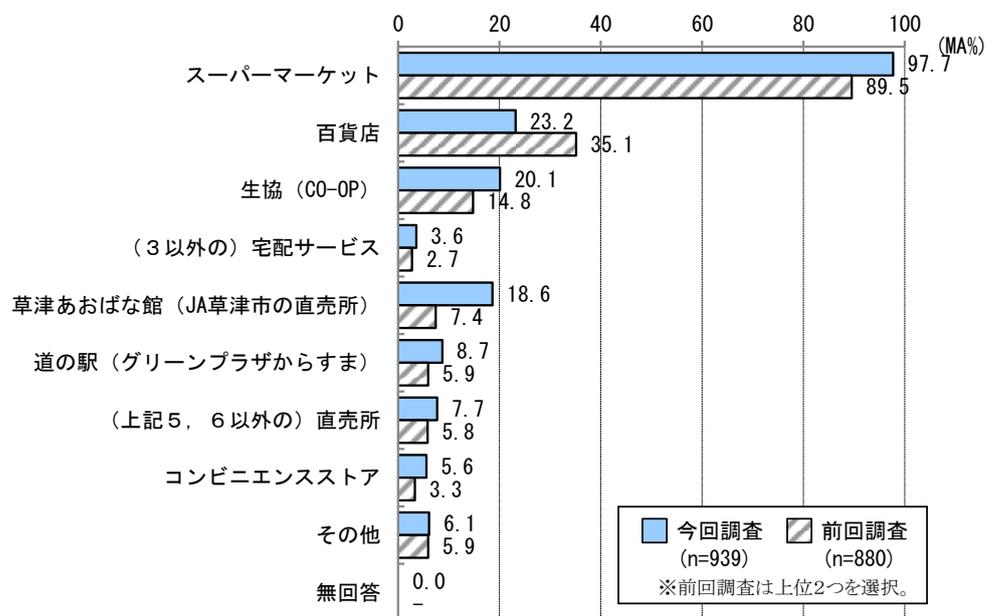
2. 農産物の購入について

〔1〕農産物（野菜や果物）の購入先

問6 農産物（野菜や果物）の購入先について、主にどちらで購入しますか。

【○はあてはまるものすべて】

【農産物（野菜や果物）の購入先（前回調査との比較）】



農産物（野菜や果物）の購入先は、「スーパーマーケット」が97.7%と最も多く、次いで、「百貨店」が23.2%、「生協 (CO-OP)」が20.1%となっている。前回調査と比較すると、「草津あおばな館（※JA 草津市の直売所）」が11.2%増加している。※当該アンケート調査の実施時期での名称を使用（以下同様）

【農産物（野菜や果物）の購入先（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	スーパーマーケット 97.5%	百貨店 21.1%	生協 (CO-OP) 20.3%
	女性 (n=303)	スーパーマーケット 98.0%	百貨店 27.1%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 22.4%
年代別	18～29歳 (n=64)	スーパーマーケット 100.0%	百貨店 12.5%	コンビニエンスストア 4.7%
	30歳代 (n=109)	スーパーマーケット 99.1%	生協 (CO-OP) 23.9%	百貨店 21.1%
	40歳代 (n=202)	スーパーマーケット 97.0%	生協 (CO-OP) 23.3%	百貨店 19.3%
	50歳代 (n=186)	スーパーマーケット 99.5%	百貨店 22.6%	生協 (CO-OP) 19.4%
	60歳以上 (n=375)	スーパーマーケット 96.5%	百貨店 28.0%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 25.3%

男女別・年代別にみると、「女性」、「60歳以上」では「草津あおばな館 (JA 草津市の直売所)」が多く、「男性」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」では「生協 (CO-OP)」が多くなっている。

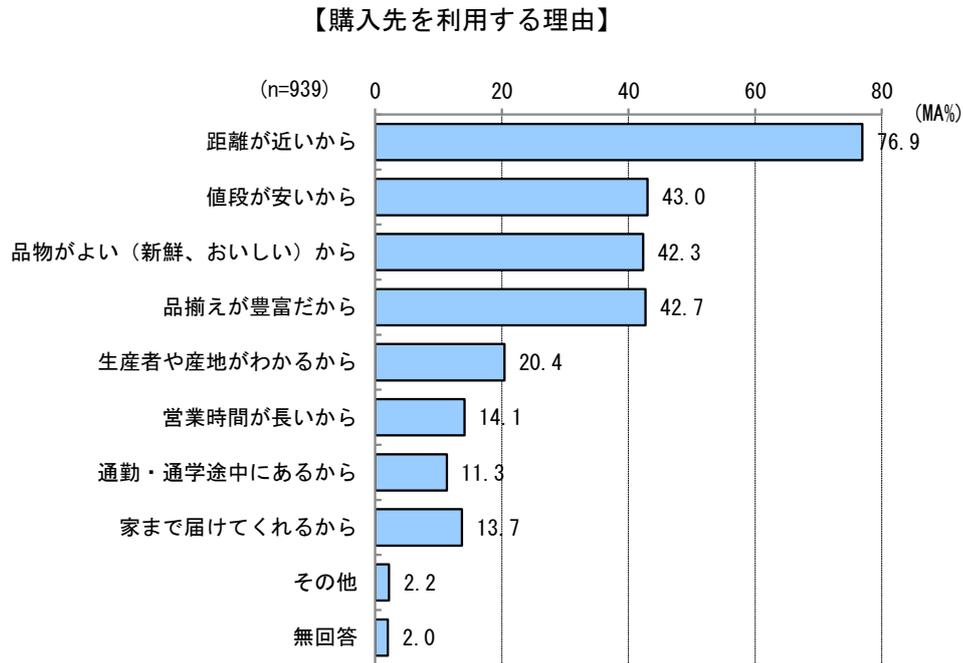
【農産物（野菜や果物）の購入先（地区別・居住年数別・家族構成別）】

		第1位	第2位	第3位
地区別	高穂中学校区 (n=169)	スーパーマーケット 98.2%	生協 (CO-OP) 23.1%	百貨店 14.2%
	草津中学校区 (n=275)	スーパーマーケット 96.7%	百貨店 40.7%	生協 (CO-OP) 18.2%
	老上中学校区 (n=123)	スーパーマーケット 95.9%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 26.0%	生協 (CO-OP) 15.4%
	玉川中学校区 (n=138)	スーパーマーケット 100.0%	生協 (CO-OP) 18.8%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 13.8%
	松原中学校区 (n=117)	スーパーマーケット 97.4%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 29.1%	百貨店 22.2%
	新堂中学校区 (n=94)	スーパーマーケット 97.9%	生協 (CO-OP) / 草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 31.9%	
	居住年数別	20年以上 (n=521)	スーパーマーケット 97.3%	百貨店 25.3%
11～20年未満 (n=164)		スーパーマーケット 98.8%	百貨店 22.6%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 18.3%
6～10年間 (n=90)		スーパーマーケット 98.9%	百貨店 20.0%	生協 (CO-OP) 18.9%
2～5年間 (n=97)		スーパーマーケット 95.9%	百貨店 / 生協 (CO-OP) 20.6%	
2年未満 (n=65)		スーパーマーケット 98.5%	百貨店 16.9%	生協 (CO-OP) 9.2%
家族構成別	1人暮らし (n=203)	スーパーマーケット 97.0%	百貨店 23.6%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 12.8%
	夫婦だけの世帯 (n=233)	スーパーマーケット 97.4%	草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 25.3%	百貨店 24.5%
	2世代世帯 (n=420)	スーパーマーケット 98.1%	生協 (CO-OP) 25.5%	百貨店 22.6%
	3世代世帯 (n=35)	スーパーマーケット 100.0%	生協 (CO-OP) 28.6%	百貨店 / 草津あおばな館 (JA草津市の直売所) 20.0%

地区別・居住年数別・家族構成別にみると、「草津あおばな館（JA草津市の直売所）」は、「老上中学校区」、「松原中学校区」、居住年数の長い人、「夫婦だけの世帯」で多くなっている。「2世代世帯」、「3世代世帯」では「生協（CO-OP）」が多くなっている。

〔2〕 購入先を利用する理由

問7 問6で選んだ購入先を利用する理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】



購入先を利用する理由は、「距離が近いから」が 76.9%と最も多く、次いで、「値段が安いから」が 43.0%、「品揃えが豊富だから」が 42.7%、「品物がよい (新鮮、おいしい) から」が 42.3%となっている。

【購入先を利用する理由 (男女別・年代別)】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	距離が近いから 78.0%	品揃えが豊富だから 47.1%	値段が安いから 46.1%
	女性 (n=303)	距離が近いから 74.6%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 44.2%	値段が安いから 36.6%
年代別	18~29歳 (n=64)	距離が近いから 73.4%	値段が安いから 56.3%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 26.6%
	30歳代 (n=109)	距離が近いから 87.2%	値段が安いから 50.5%	品揃えが豊富だから 39.4%
	40歳代 (n=202)	距離が近いから 79.2%	値段が安いから 49.5%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 40.1%
	50歳代 (n=186)	距離が近いから 71.5%	値段が安いから 46.8%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 品揃えが豊富だから 43.0%
	60歳以上 (n=375)	距離が近いから 75.7%	品揃えが豊富だから 48.0%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 47.7%

男女別にみると、「男性」では「品揃えが豊富だから」が多く、「女性」では「品物がよい (新鮮、おいしい) から」が多くなっている。年代別にみると、「50歳代」以下では「値段が安いから」が多くなっている。

【購入先を利用する理由（農産物の購入先別）】

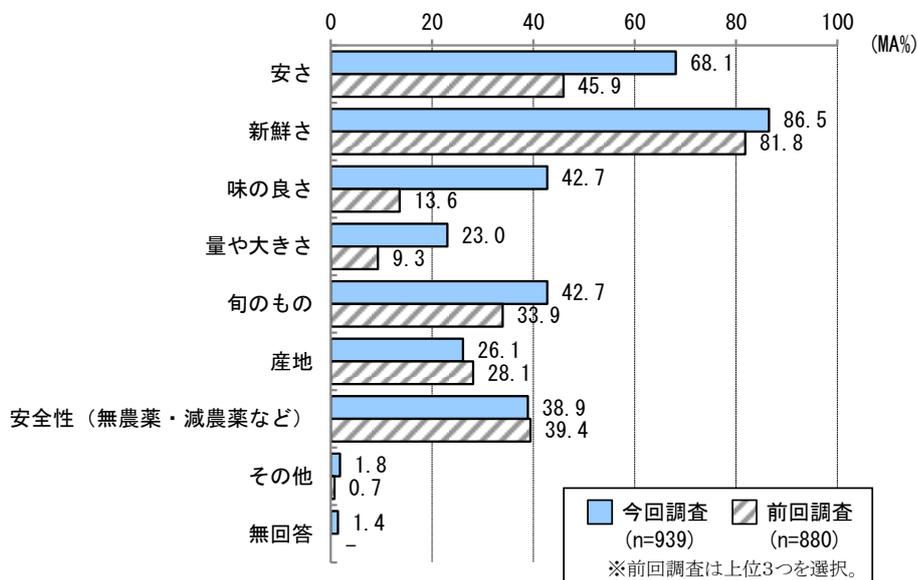
		第1位	第2位	第3位
農産物の購入先別	スーパーマーケット (n=917)	距離が近いから 78.2%	値段が安いから 43.9%	品揃えが豊富だから 43.6%
	百貨店 (n=218)	距離が近いから 83.5%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 65.1%	品揃えが豊富だから 50.9%
	生協 (CO-OP) (n=189)	距離が近いから 73.5%	家まで届けてくれるから 55.0%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 53.4%
	(3以外の) 宅配サービス (n=34)	家まで届けてくれるから 79.4%	距離が近いから 64.7%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 55.9%
	草津あおばな館 (n=175)	品物がよい (新鮮、おいしい) から 77.7%	距離が近いから 74.3%	生産者や産地がわかるから 49.7%
	道の駅(グリーンプラザからすま) (n=82)	距離が近いから 73.2%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 72.0%	生産者や産地がわかるから 52.4%
	(上記5、6以外の) 直売所 (n=72)	品物がよい (新鮮、おいしい) から 83.3%	距離が近いから 66.7%	生産者や産地がわかるから 50.0%
	コンビニエンスストア (n=53)	距離が近いから 81.1%	品揃えが豊富だから 56.6%	品物がよい (新鮮、おいしい) から 52.8%
	その他 (n=57)	距離が近いから／品物がよい(新鮮、おいしい) から 54.4%		値段が安いから 38.6%

農産物の購入先別にみると、「スーパーマーケット」では「値段が安いから」が多く、「百貨店」、「草津あおばな館」、「道の駅草津（グリーンプラザからすま）」、「直売所」では「品物がよい（新鮮、おいしい）から」が多く、「生協（CO-OP）」、「宅配サービス」では「家まで届けてくれるから」が多くなっている。

〔3〕農産物を購入するときの基準

問8 農産物を購入するときの基準は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

【農産物を購入するときの基準（前回調査との比較）】



農産物を購入するときの基準は、「新鮮さ」が86.5%と最も多く、次いで、「安さ」が68.1%、「味の良さ」、「旬のもの」がそれぞれ42.7%、「安全性（無農薬・減農薬など）」が38.9%となっている。前回調査と比較すると、「味の良さ」が29.1%、「安さ」が22.2%増加している。

【農産物を購入するときの基準（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	新鮮さ 86.7%	安さ 70.4%	味の良さ 44.5%
	女性 (n=303)	新鮮さ 85.8%	安さ 63.4%	旬のもの 51.8%
年代別	18～29歳 (n=64)	安さ 82.8%	新鮮さ 73.4%	量や大きさ 43.8%
	30歳代 (n=109)	新鮮さ 84.4%	安さ 71.6%	旬のもの 49.5%
	40歳代 (n=202)	新鮮さ 86.1%	安さ 74.3%	旬のもの 44.1%
	50歳代 (n=186)	新鮮さ 89.2%	安さ 70.4%	味の良さ 44.1%
	60歳以上 (n=375)	新鮮さ 88.0%	安さ 60.5%	安全性（無農薬・減農薬など） 47.2%

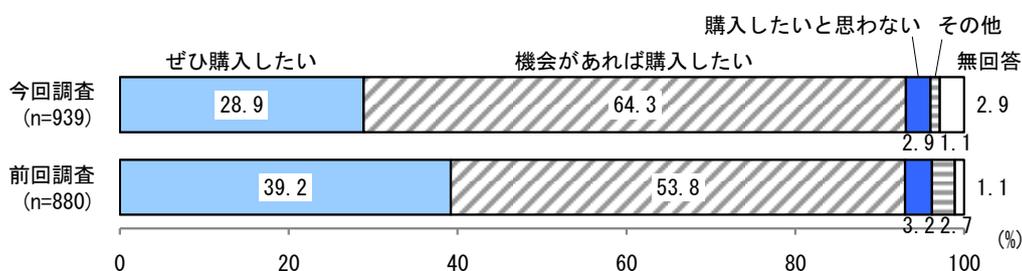
男女別・年代別にみると、性別や年齢に関わらず、「新鮮さ」、「安さ」が上位となっている。

3. 草津市産農産物について

〔1〕草津市産の農産物の購入意向

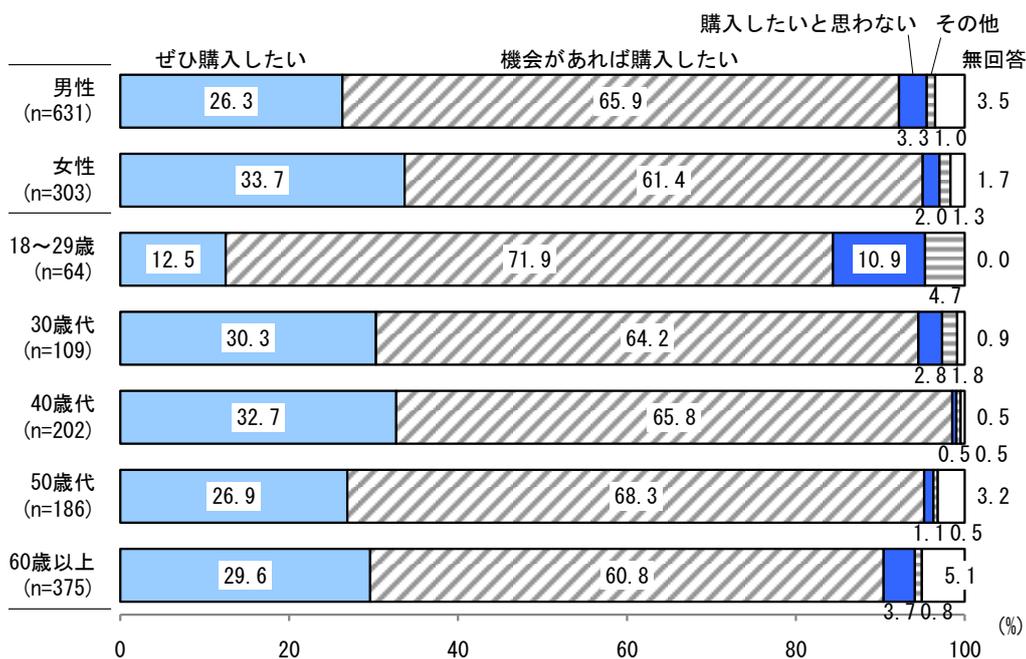
問9 草津市産の農産物を購入したいと思いますか。【○は1つだけ】

【草津市産の農産物の購入意向（前回調査との比較）】



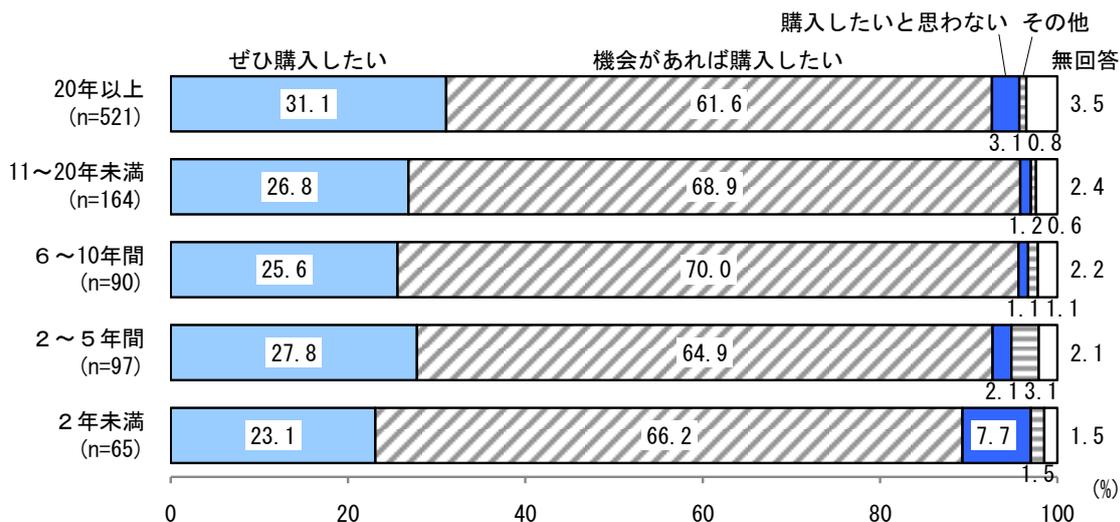
草津市産の農産物の購入意向は、「機会があれば購入したい」が64.3%と最も多く、次いで、「ぜひ購入したい」が28.9%となっている。前回調査と比較すると、「ぜひ購入したい」が10.3%減少し、「機会があれば購入したい」が10.5%増加している。

【草津市産の農産物の購入意向（男女別・年代別）】



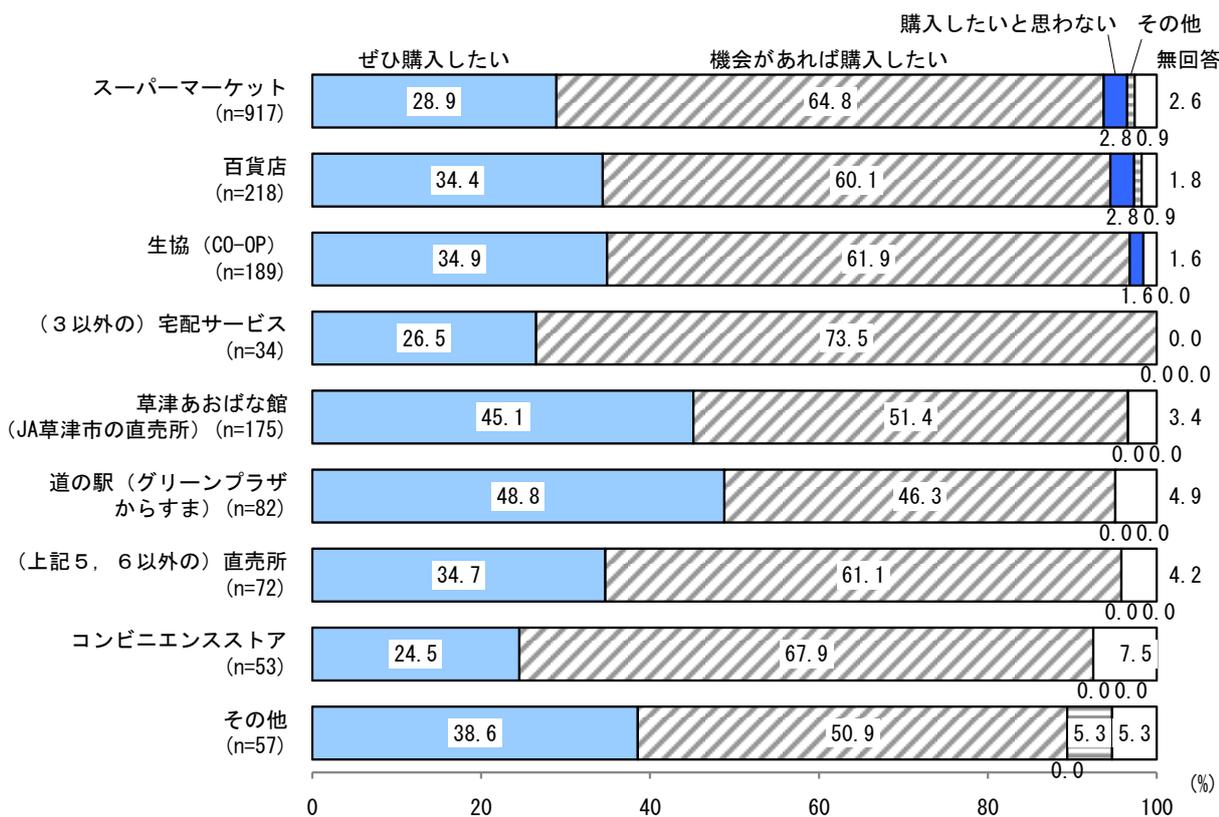
男女別・年代別にみると、「ぜひ購入したい」は、「女性」、「30歳代」以上で多くなっている。

【草津市産の農産物の購入意向（居住年数別）】



居住年数別にみると、「ぜひ購入したい」は、おおむね居住年数が長いほど多くなっている。

【草津市産の農産物の購入意向（農産物の購入場所別）】

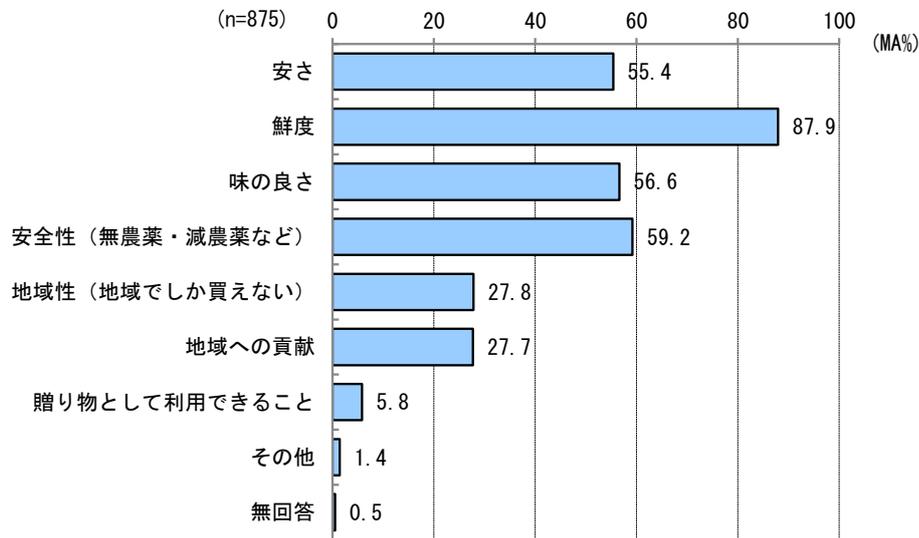


農産物の購入場所別にみると、「ぜひ購入したい」は、「草津あおばな館（JA草津市の直売所）」、「道の駅（グリーンプラザからすま）」で多くなっている。

〔2〕草津市産の農産物の購入にあたって何を求めるか

問9で「1. ぜひ購入したい」または「2. 機会があれば購入したい」を選択した方にお聞きます。
問9-1 草津市産農産物の購入にあたって何を求めますか。【○はあてはまるものすべて】

【草津市産の農産物の購入にあたって何を求めるか】



草津市産の農産物の購入にあたって何を求めるかは、「鮮度」が87.9%と最も多く、次いで、「安全性 (無農薬・減農薬など)」が59.2%、「味の良さ」が56.6%、「安さ」が55.4%となっている。

【草津市産農産物の購入にあたって何を求めるか (男女別・年代別)】

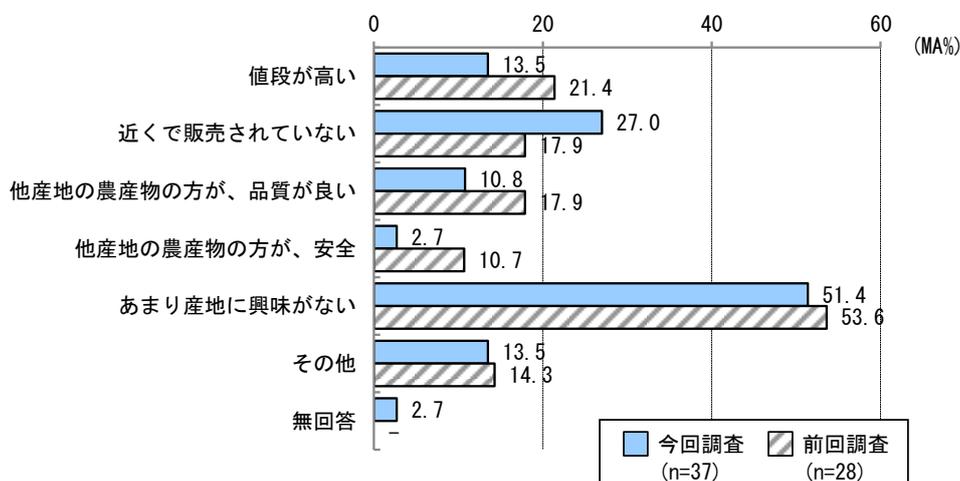
		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=582)	鮮度 86.8%	安さ 56.9%	味の良さ 56.7%
	女性 (n=288)	鮮度 89.9%	安全性 (無農薬・減農薬など) 64.2%	味の良さ 56.3%
年代別	18~29歳 (n=54)	鮮度 79.6%	安さ 64.8%	味の良さ 55.6%
	30歳代 (n=103)	鮮度 85.4%	安さ 55.3%	安全性 (無農薬・減農薬など) 54.4%
	40歳代 (n=199)	鮮度 86.9%	安全性 (無農薬・減農薬など) 59.3%	味の良さ 58.8%
	50歳代 (n=177)	鮮度 88.1%	安全性 (無農薬・減農薬など) 65.0%	味の良さ 63.3%
	60歳以上 (n=339)	鮮度 90.6%	安全性 (無農薬・減農薬など) 62.5%	味の良さ 53.7%

男女別・年代別にみると、「男性」、「18~29歳」「30歳代」では「安さ」が多く、「女性」、「40歳代」以上では「安全性 (無農薬・減農薬など)」が多くなっている。

〔3〕草津市産の農産物を購入したいと思わない理由

問9で「3. 購入したいと思わない」または「4. その他」を選択した方にお聞きします。
問9-2 購入したいと思わない理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

【草津市産の農産物を購入したいと思わない理由（前回調査との比較）】

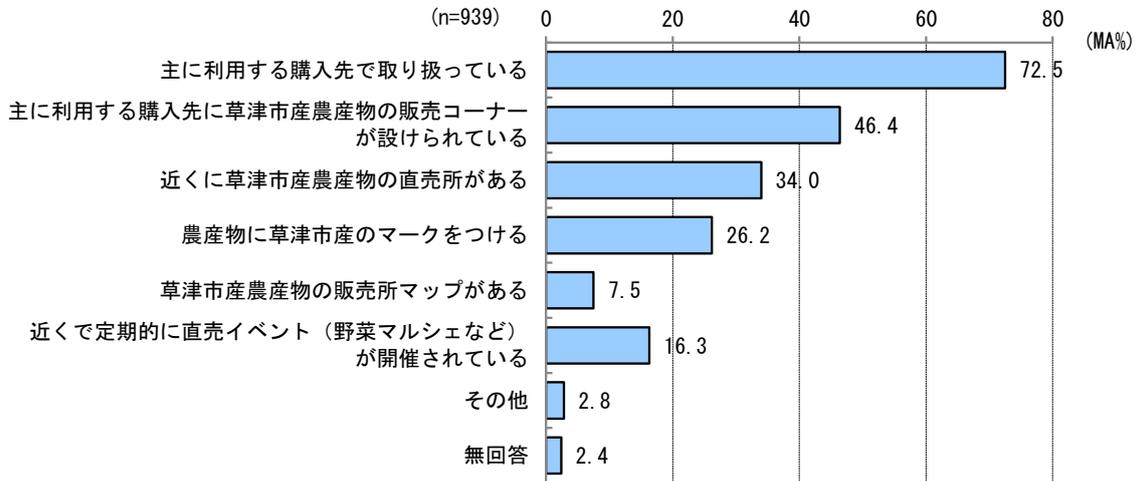


草津市産の農産物を購入したいと思わない理由は、「あまり産地に興味がない」が51.4%と最も多く、次いで、「近くで販売されていない」が27.0%、「値段が高い」が13.5%となっている。前回調査と比較すると、「近くで販売されていない」が9.1%増加し、「他産地の農産物の方が、安全」が8.0%、「値段が高い」が7.9%減少している。

〔4〕草津市産の農産物を購入する条件

問10 どのような条件が揃えば草津市産の農産物を購入しますか。
【○はあてはまるものすべて】

【草津市産の農産物を購入する条件】



草津市産の農産物を購入する条件は、「主に利用する購入先で取り扱っている」が72.5%と最も多く、次いで、「主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている」が46.4%、「近くに草津市産農産物の直売所がある」が34.0%となっている。

【草津市産の農産物を購入する条件（男女別・年代別）】

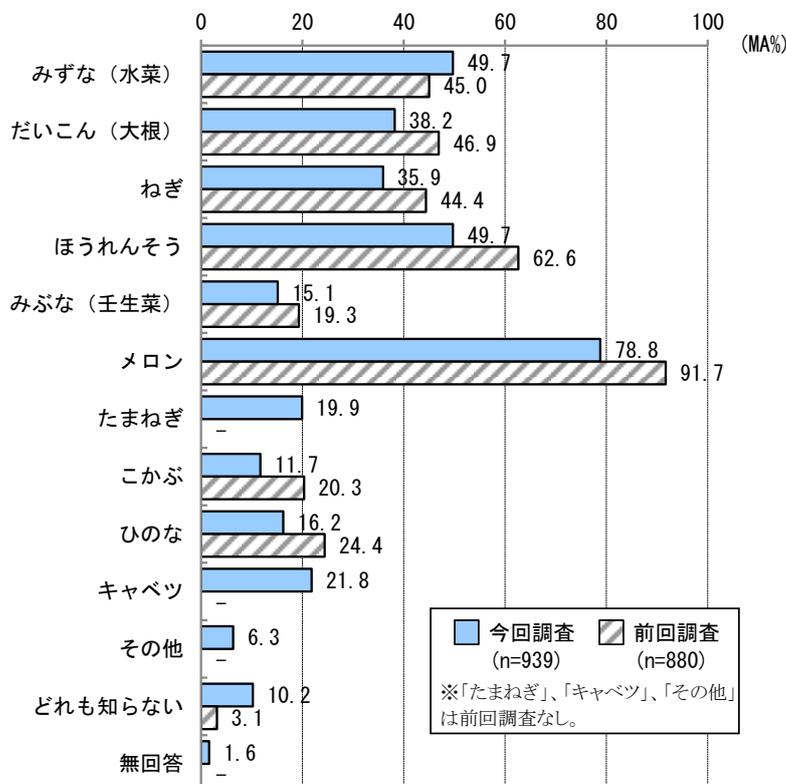
		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	主に利用する購入先で取り扱っている 74.5%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 45.0%	近くに草津市産農産物の直売所がある 31.4%
	女性 (n=303)	主に利用する購入先で取り扱っている 68.0%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 49.2%	近くに草津市産農産物の直売所がある 39.9%
年代別	18～29歳 (n=64)	主に利用する購入先で取り扱っている 78.1%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 23.4%	農産物に草津市産のマークをつける 15.6%
	30歳代 (n=109)	主に利用する購入先で取り扱っている 82.6%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 42.2%	近くに草津市産農産物の直売所がある 28.4%
	40歳代 (n=202)	主に利用する購入先で取り扱っている 83.7%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 49.5%	近くに草津市産農産物の直売所がある 36.6%
	50歳代 (n=186)	主に利用する購入先で取り扱っている 70.4%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 48.9%	近くに草津市産農産物の直売所がある 32.3%
	60歳以上 (n=375)	主に利用する購入先で取り扱っている 63.7%	主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている 48.8%	近くに草津市産農産物の直売所がある 38.7%

男女別・年代別にみると、性別や年齢に関わらず、「主に利用する購入先で取り扱っている」、「主に利用する購入先に草津市産農産物の販売コーナーが設けられている」が上位となっている。

〔5〕草津市内で生産されている野菜の認知度

問11 次の野菜は、草津市内で生産されている主な野菜ですが、あなたが草津市で生産されていると知っていたものはどれですか。【〇はあてはまるものすべて】

【草津市内で生産されている野菜の認知度（前回調査との比較）】



草津市内で生産されている野菜の認知度は、「メロン」が78.8%と最も多く、次いで、「みずな (水菜)」、「ほうれんそう」がそれぞれ49.7%となっている。前回調査と比較すると、「みずな (水菜)」が4.7%増加し、「メロン」、「ほうれんそう」がそれぞれ12.9%減少している。

【草津市で生産されている野菜の認知度（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	メロン 77.0%	みずな (水菜) / ほうれんそう 45.6%	
	女性 (n=303)	メロン 82.5%	みずな (水菜) 58.4%	ほうれんそう 57.8%
年代別	18~29歳 (n=64)	メロン 35.9%	みずな (水菜) / ほうれんそう 23.4%	
	30歳代 (n=109)	メロン 68.8%	みずな (水菜) 48.6%	ほうれんそう 33.0%
	40歳代 (n=202)	メロン 83.2%	みずな (水菜) 52.5%	ほうれんそう 42.6%
	50歳代 (n=186)	メロン 85.5%	ほうれんそう 46.2%	みずな (水菜) 43.0%
	60歳以上 (n=375)	メロン 83.2%	ほうれんそう 64.3%	みずな (水菜) 56.3%

男女別・年代別にみると、性別や年齢による項目の大きな違いはみられないが、全般的に、「男性」より「女性」の方が、また、おおむね年齢が高いほど認知度が高くなっている。

【草津市で生産されている野菜の認知度（居住年数別）】

		第1位	第2位	第3位
居住年数別	20年以上 (n=521)	メロン 86.8%	ほうれんそう 61.2%	みずな（水菜） 56.0%
	11～20年未満 (n=164)	メロン 80.5%	みずな（水菜） 48.8%	ほうれんそう 45.1%
	6～10年間 (n=90)	メロン 74.4%	みずな（水菜） 45.6%	ほうれんそう 33.3%
	2～5年間 (n=97)	メロン 67.0%	みずな（水菜） 42.3%	ほうれんそう 29.9%
	2年未満 (n=65)	メロン 33.8%	ほうれんそう 23.1%	みずな（水菜） 20.0%

居住年数別にみると、全般的に、居住年数が長いほど、認知度が高くなっている。

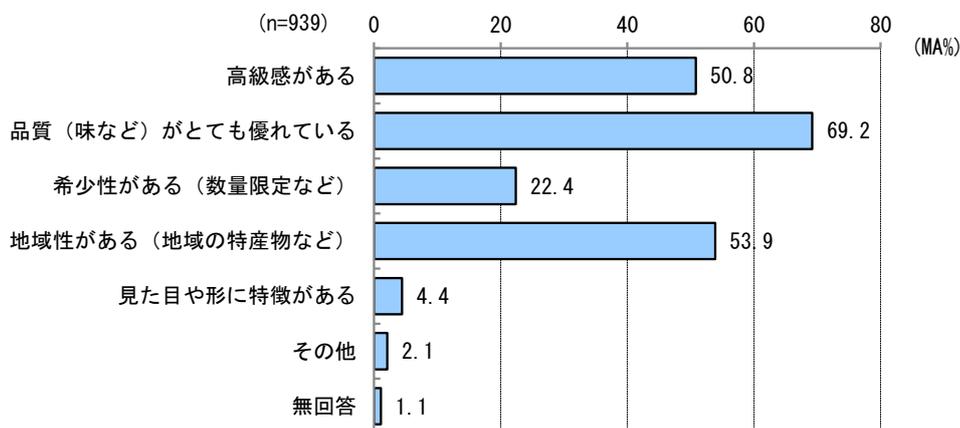
4. ブランド農産物について

〔1〕『ブランド農産物』という言葉からイメージすること

問12 『ブランド農産物』という言葉から、何をイメージしますか。

【○はあてはまるものすべて】

【『ブランド農産物』という言葉からイメージすること】

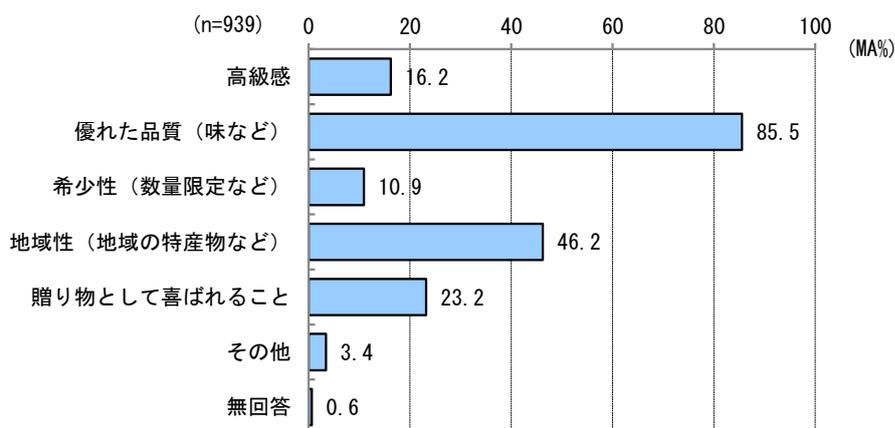


『ブランド農産物』という言葉からイメージすることは、「品質（味など）がとても優れている」が69.2%と最も多く、次いで、「地域性がある（地域の特産物など）」が53.9%、「高級感がある」が50.8%となっている。

〔2〕『ブランド農産物』に求めること

問13 『ブランド農産物』を購入するなら何を求めますか。【○はあてはまるものすべて】

【『ブランド農産物』に求めること】

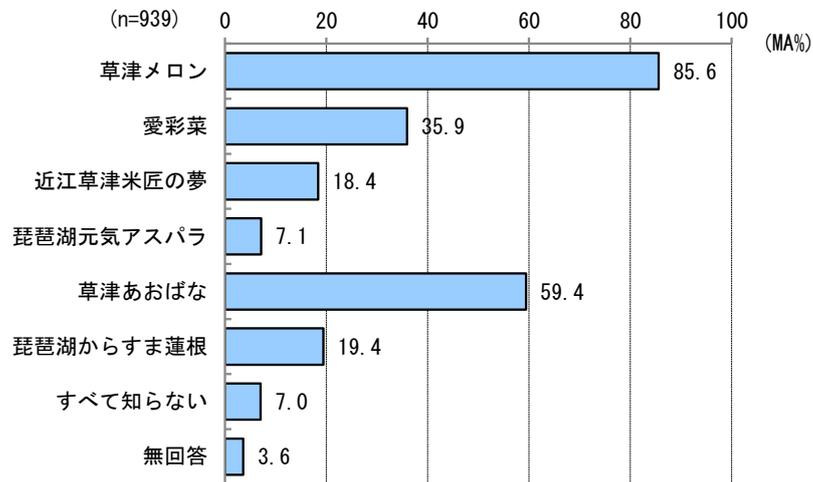


『ブランド農産物』に求めることは、「優れた品質（味など）」が85.5%と最も多く、次いで、「地域性（地域の特産物など）」が46.2%、「贈り物として喜ばれること」が23.2%となっている。

〔3〕『草津ブランド』として認証された農産物の認知度

問14 草津市では、市内の魅力的な地域資源を『草津ブランド』として認証しています。『草津ブランド』として認証された農産物のうち、知っているものはどれですか。
【〇はあてはまるものすべて】

【『草津ブランド』として認証された農産物の認知度】



『草津ブランド』として認証された農産物の認知度は、「草津メロン」が85.6%と最も多く、次いで、「草津あおばな」が59.4%、「愛彩菜」が35.9%となっている。

【『草津ブランド』として認証された農産物の認知度（男女別・年代別）】

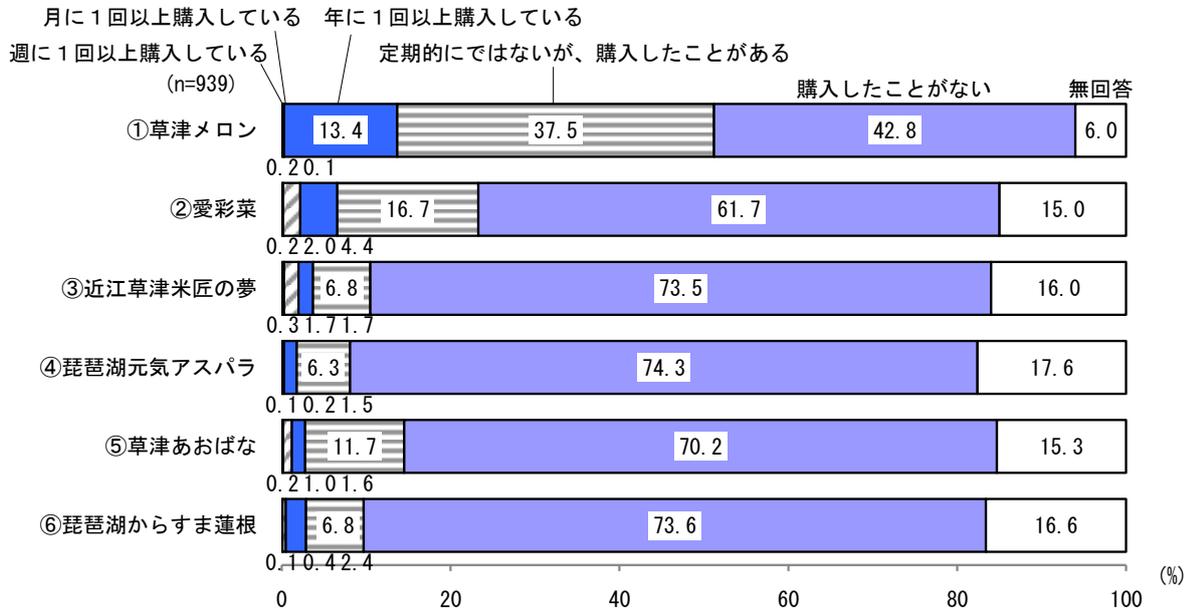
		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	草津メロン 85.6%	草津あおばな 56.1%	愛彩菜 28.8%
	女性 (n=303)	草津メロン 85.5%	草津あおばな 66.0%	愛彩菜 50.2%
年代別	18～29歳 (n=64)	草津メロン 43.8%	草津あおばな 21.9%	近江草津米匠の夢／琵琶湖からすま蓮根 12.5%
	30歳代 (n=109)	草津メロン 74.3%	草津あおばな 49.5%	愛彩菜 40.4%
	40歳代 (n=202)	草津メロン 93.6%	草津あおばな 68.8%	愛彩菜 44.1%
	50歳代 (n=186)	草津メロン 87.1%	草津あおばな 60.8%	愛彩菜 33.3%
	60歳以上 (n=375)	草津メロン 90.9%	草津あおばな 62.9%	愛彩菜 36.3%

男女別にみると、性別による大きな違いはみられない。年代別にみると、「18～29歳」での認知度が低くなっている。

〔4〕『草津ブランド』農産物の購入頻度

問15 これまでに『草津ブランド』農産物を購入したのがありますか。
それぞれの品目について教えてください。【〇は①～⑥にそれぞれ1つ】

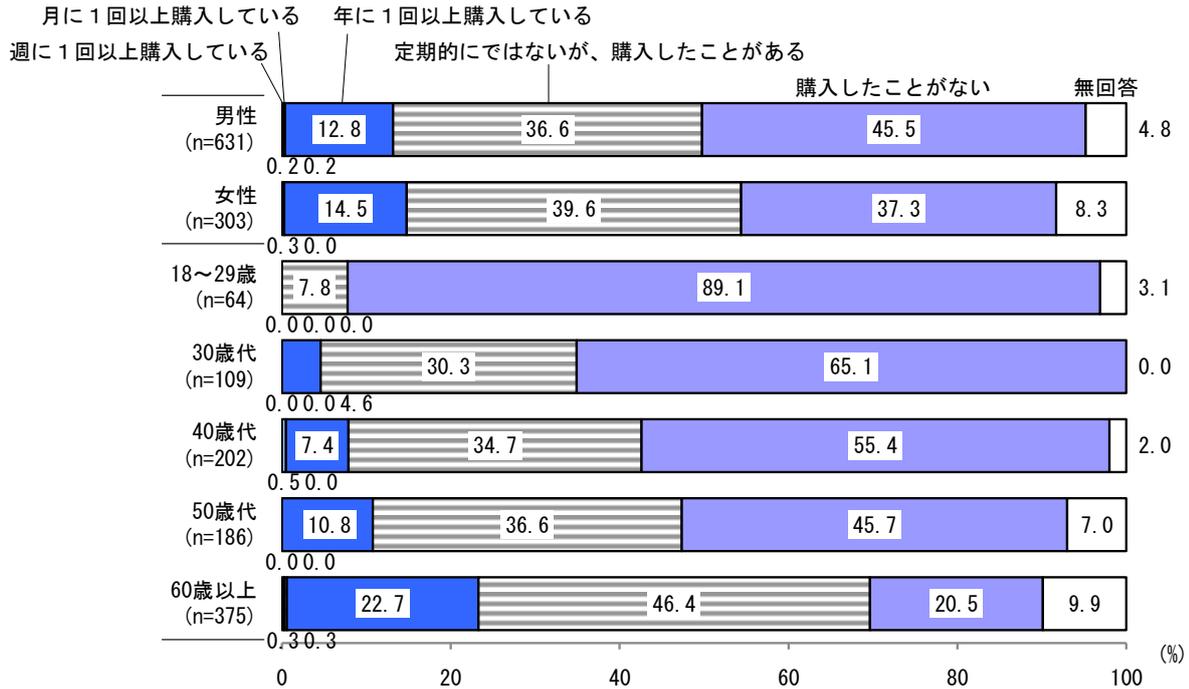
【『草津ブランド』農産物の購入頻度】



『草津ブランド』農産物の購入頻度について、『購入したことがある』は、「①草津メロン」が51.2%と最も多く、次いで、「②愛彩菜」が23.3%、「⑤草津あおばな」が14.5%となっている。

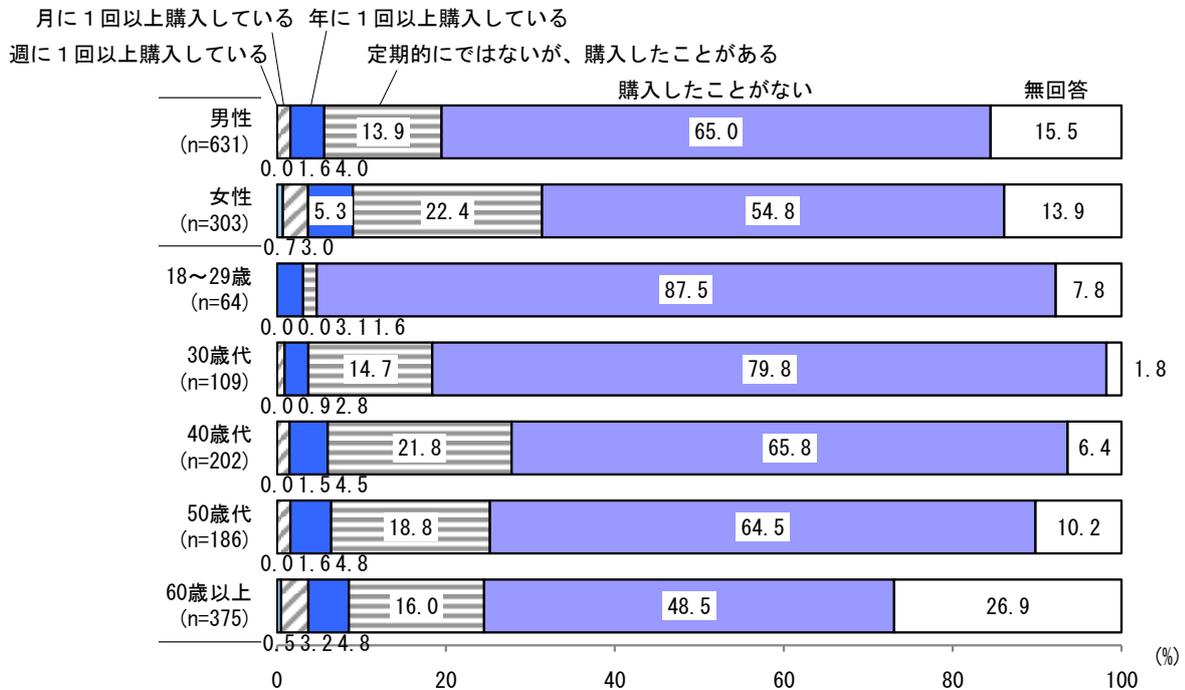
※『購入したことがある』は、「週に1回以上購入している」、「月に1回以上購入している」、「年に1回以上購入している」、「定期的にはないが、購入したことがある」の合計。

【①草津メロンの購入頻度（男女別・年代別）】



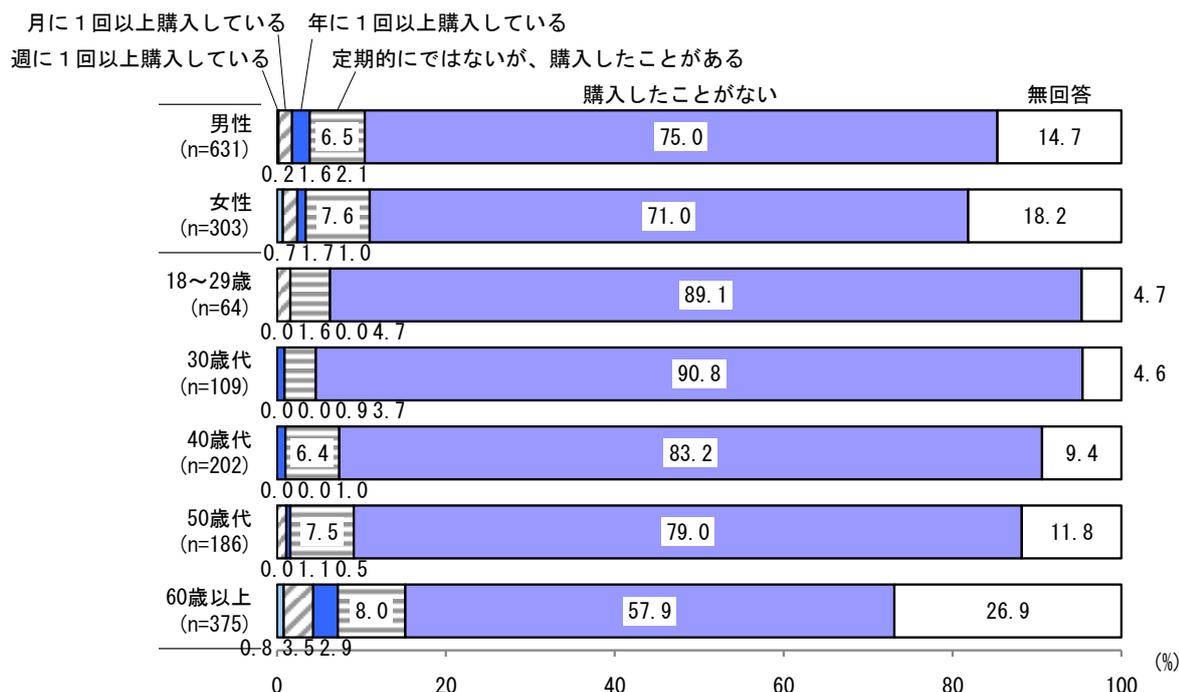
「①草津メロン」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は「男性」より「女性」の方が、また、年齢が高いほど多くなっている。

【②愛彩菜の購入頻度（男女別・年代別）】



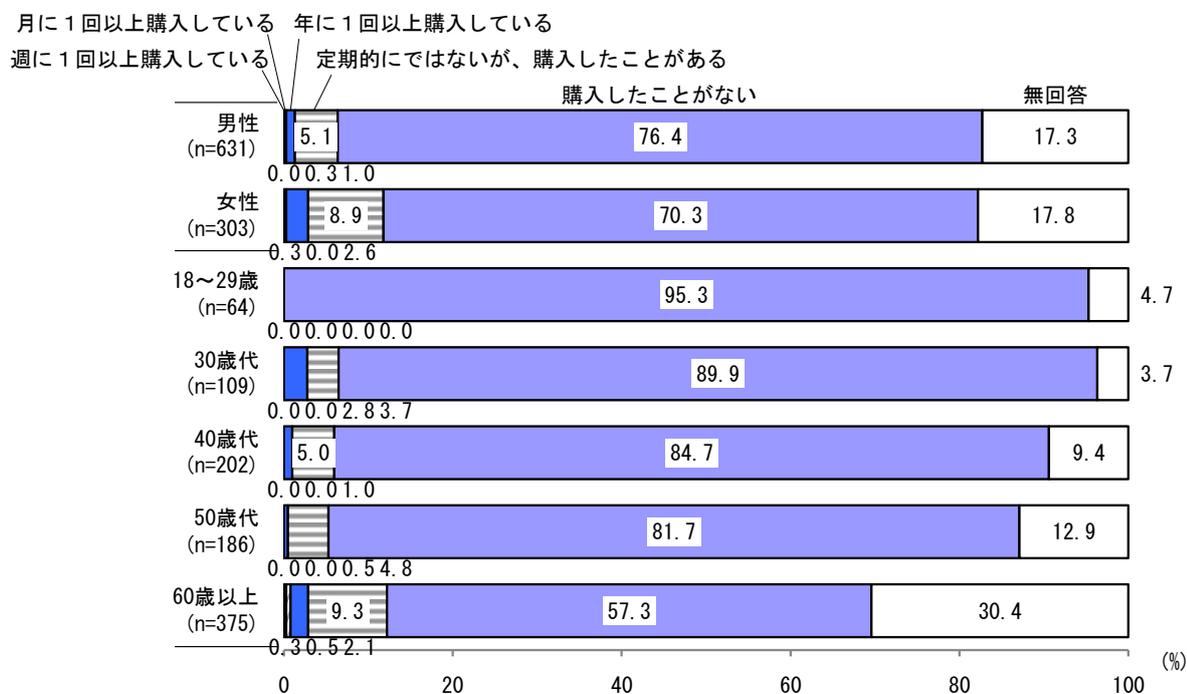
「②愛彩菜」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は「男性」より「女性」の方が、また、「40歳代」以上で多くなっている。

【③近江草津米匠の夢の購入頻度（男女別・年代別）】



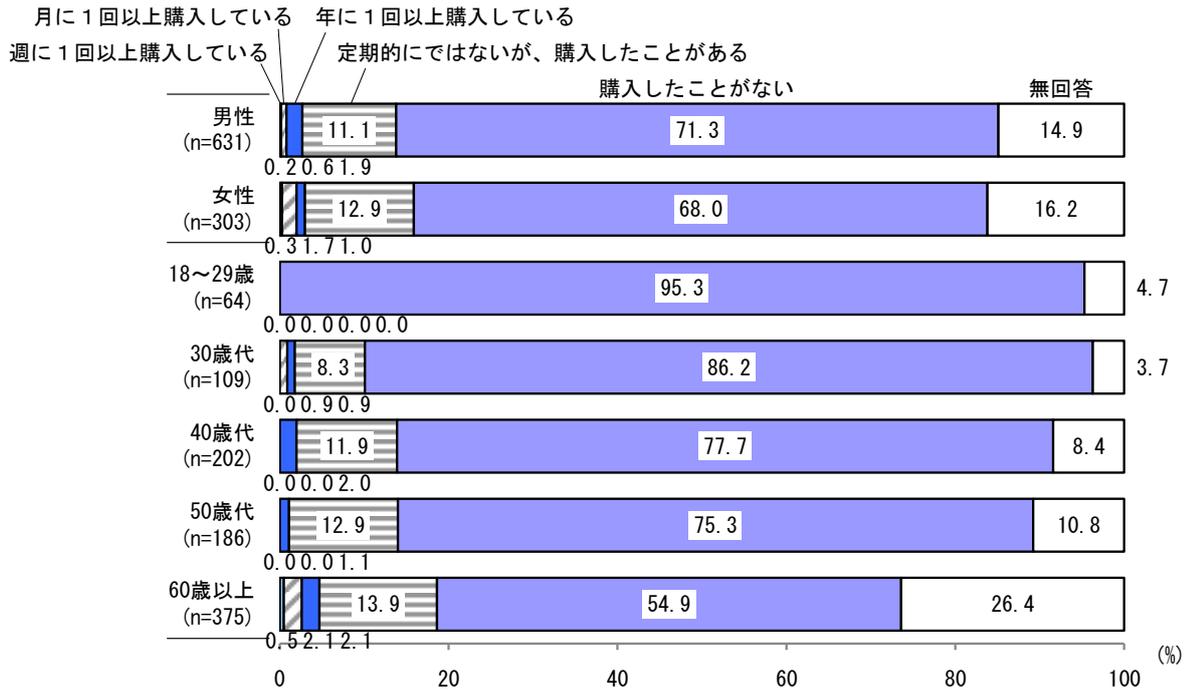
「③近江草津米匠の夢」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は性別による大きな違いはみられず、おおむね年齢が高いほど多くなっている。

【④琵琶湖元気アスパラの購入頻度（男女別・年代別）】



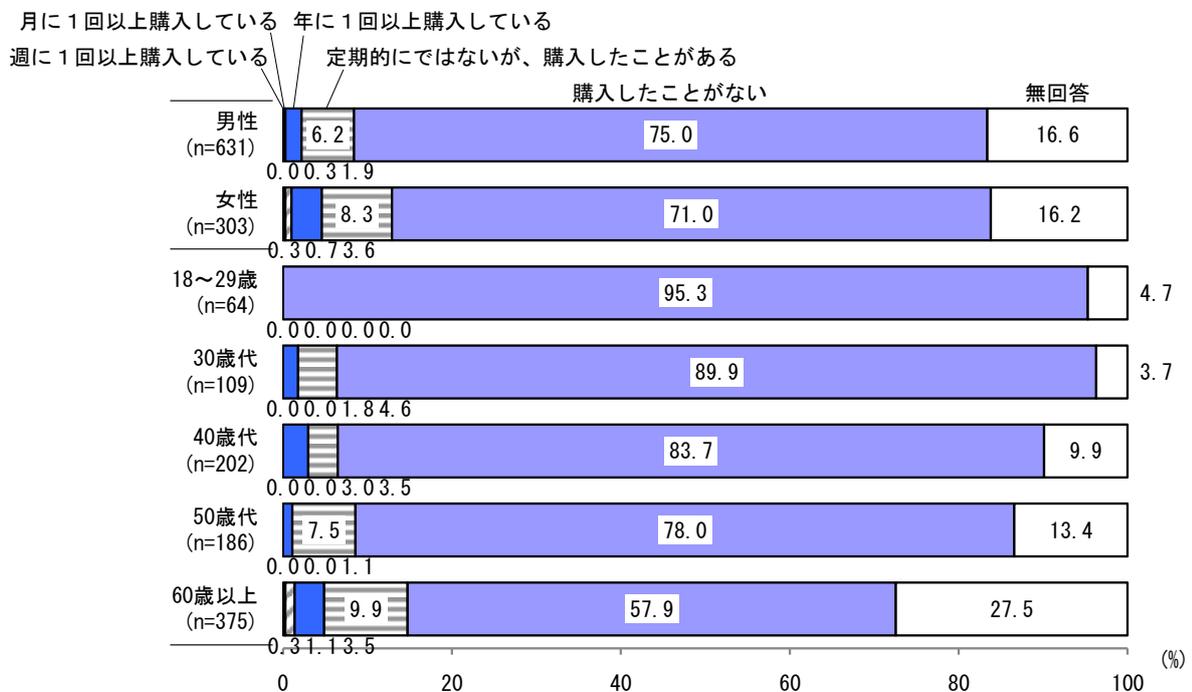
「④琵琶湖元気アスパラ」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は「男性」より「女性」の方が、また、「30歳代」以上で多くなっている。

【⑤草津あおばなの購入頻度（男女別・年代別）】



「⑤草津あおばな」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は「男性」より「女性」の方が、また、年齢が高いほど多くなっている。

【⑥琵琶湖からすま蓮根の購入頻度（男女別・年代別）】



「⑥琵琶湖からすま蓮根」の購入頻度を男女別・年代別にみると、『購入したことがある』は「男性」より「女性」の方が、また、年齢が高いほど多くなっている。

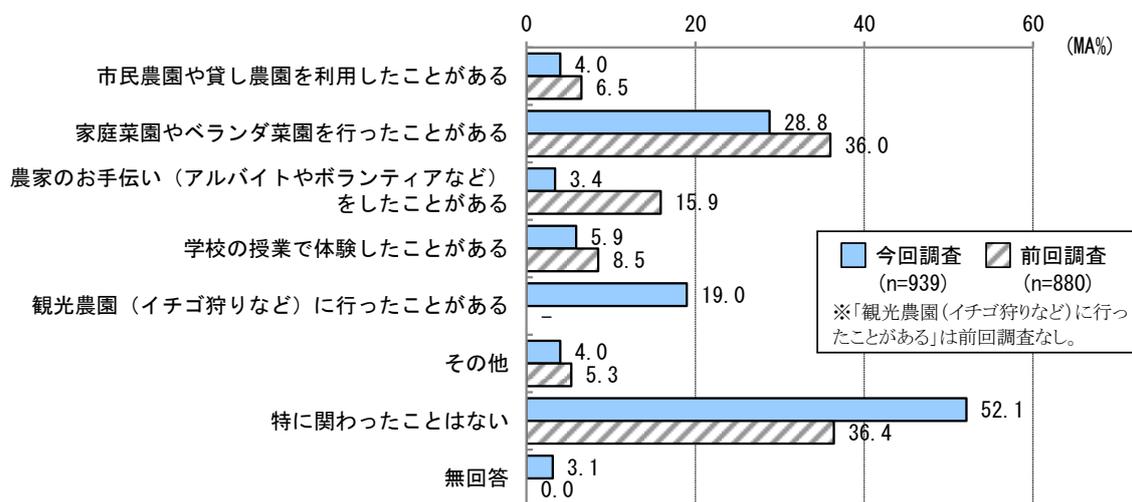
5. 農業との関わりについて

【1】草津市内において農業と関わった経験

問16 今までに、草津市内において農業と関わったことがありますか。

【○はあてはまるものすべて】

【草津市内において農業と関わった経験（前回調査との比較）】



草津市内において農業と関わった経験は、「家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある」が28.8%と最も多く、次いで、「観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある」が19.0%となっている。「特に関わったことがない」は52.1%で、前回調査と比較すると、15.7%増加している。

【草津市内において農業と関わった経験（男女別・年代別）】

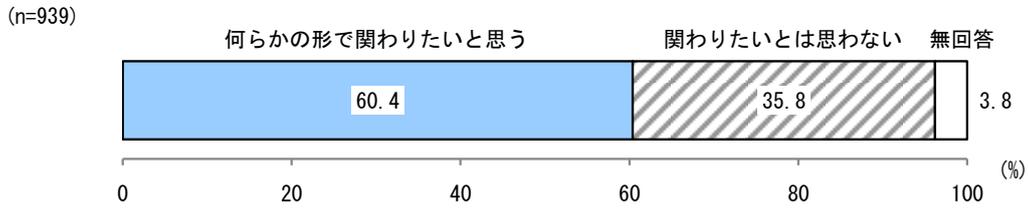
		第1位	第2位	特に関わったことはない
男女別	男性 (n=631)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 27.3%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 17.0%	特に関わったことはない 54.4%
	女性 (n=303)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 31.7%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 23.1%	特に関わったことはない 47.9%
年代別	18～29歳 (n=64)	学校の授業で体験したことがある 14.1%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 9.4%	特に関わったことはない 70.3%
	30歳代 (n=109)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 27.5%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 22.9%	特に関わったことはない 56.9%
	40歳代 (n=202)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 31.7%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 21.8%	特に関わったことはない 48.0%
	50歳代 (n=186)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 26.9%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 17.2%	特に関わったことはない 54.3%
	60歳以上 (n=375)	家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある 32.8%	観光農園（イチゴ狩りなど）に行ったことがある 18.9%	特に関わったことはない 48.5%

男女別・年代別にみると、「特に関わったことがない」は、「男性」、「18～29歳」で多くなっている。

〔2〕 今後、農業と関わってみたいと思うか

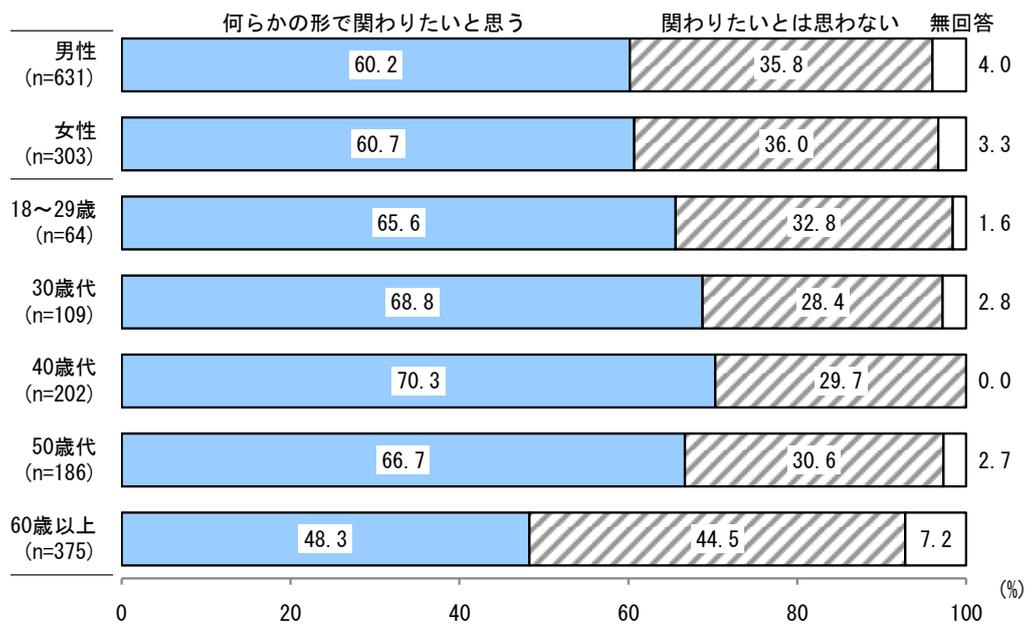
問17 今後、農業と関わってみたいと思いますか。【〇は1つ】

【今後、農業と関わってみたいと思うか】



今後、農業と関わってみたいと思うかは、「何らかの形で関わりたいと思う」が60.4%、「関わりたいとは思わない」が35.8%となっている。

【今後、農業と関わってみたいと思うか（男女別・年代別）】



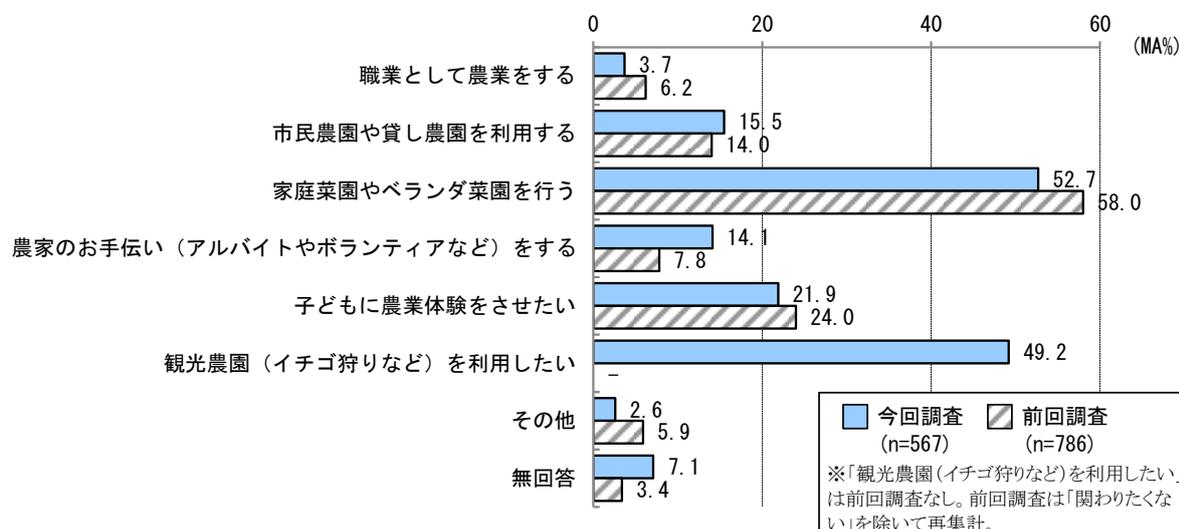
男女別にみると、「何らかの形で関わりたいと思う」は、性別よる大きな違いはみられず、年代別にみると「50歳代」以下で多くなっている。

【3】農業とどのように関わってみたいか

問17で「1. 何らかの形で関わりたいと思う」を選択した方にお聞きします。

問17-1 農業とどのように関わってみたいですか。 【〇はあてはまるものすべて】

【農業とどのように関わってみたいか（前回調査との比較）】



農業とどのように関わってみたいかは、「家庭菜園やベランダ菜園を行う」が52.7%と最も多く、次いで、「観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい」が49.2%となっている。前回調査と比較すると、「農家のお手伝い（アルバイトやボランティアなど）をする」が6.3%増加し、「家庭菜園やベランダ菜園を行う」が5.3%減少している。

【農業とどのように関わってみたいか（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=380)	家庭菜園やベランダ菜園を行う 55.3%	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 44.7%	子どもに農業体験をさせたい 20.5%
	女性 (n=184)	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 58.7%	家庭菜園やベランダ菜園を行う 47.3%	子どもに農業体験をさせたい 25.0%
年代別	18～29歳 (n=42)	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 69.0%	家庭菜園やベランダ菜園を行う 35.7%	子どもに農業体験をさせたい 16.7%
	30歳代 (n=75)	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 73.3%	子どもに農業体験をさせたい 68.0%	家庭菜園やベランダ菜園を行う 42.7%
	40歳代 (n=142)	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 55.6%	家庭菜園やベランダ菜園を行う 47.9%	子どもに農業体験をさせたい 34.5%
	50歳代 (n=124)	家庭菜園やベランダ菜園を行う 57.3%	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 39.5%	市民農園や貸し農園を利用する 25.0%
	60歳以上 (n=181)	家庭菜園やベランダ菜園を行う 62.4%	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい 35.9%	市民農園や貸し農園を利用する 16.0%

男女別・年代別にみると、「男性」、「50歳代」以上では「家庭菜園やベランダ菜園を行う」が多く、「女性」、「40歳代」以下では「観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい」が多くなっている。また、「30歳代」、「40歳代」では「子どもに農業体験をさせたい」、「50歳代」「60歳以上」では「市民農園や貸し農園を利用する」も多くなっている。

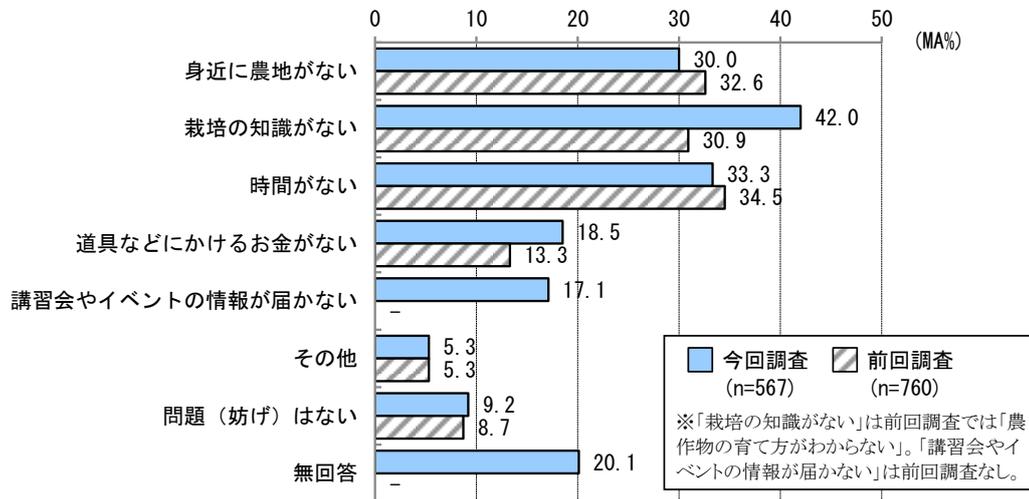
〔4〕農業と関わる場合に、問題（妨げ）となること

問17で「1. 何らかの形で関わりたいと思う」を選択した方にお聞きします。

問17-2 農業と関わる場合に、問題（妨げ）となることは何ですか。

【○はあてはまるものすべて】

【農業と関わる場合に、問題（妨げ）となること（前回調査との比較）】



農業と関わる場合に、問題（妨げ）となることは、「栽培の知識がない」が42.0%と最も多く、次いで、「時間がない」が33.3%、「身近に農地がない」が30.0%となっている。前回調査と比較すると、「栽培の知識がない」が11.1%増加している

【農業と関わる場合に、問題（妨げ）となること（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=380)	栽培の知識がない 40.0%	時間がない 34.7%	身近に農地がない 29.2%
	女性 (n=184)	栽培の知識がない 45.7%	身近に農地がない 31.5%	時間がない 31.0%
年代別	18～29歳 (n=42)	時間がない 31.0%	身近に農地がない／栽培の知識がない 26.2%	
	30歳代 (n=75)	栽培の知識がない 46.7%	時間がない 34.7%	身近に農地がない 29.3%
	40歳代 (n=142)	時間がない 52.1%	栽培の知識がない 43.7%	身近に農地がない 23.2%
	50歳代 (n=124)	栽培の知識がない 51.6%	時間がない 41.9%	身近に農地がない 37.1%
	60歳以上 (n=181)	栽培の知識がない 35.9%	身近に農地がない 32.0%	講習会やイベントの情報が届かない 14.9%

男女別・年代別にみると、「男性」、「50歳代」以下では「時間がない」が多く、「女性」、「60歳以上」では「身近に農地がない」が多くなっている。

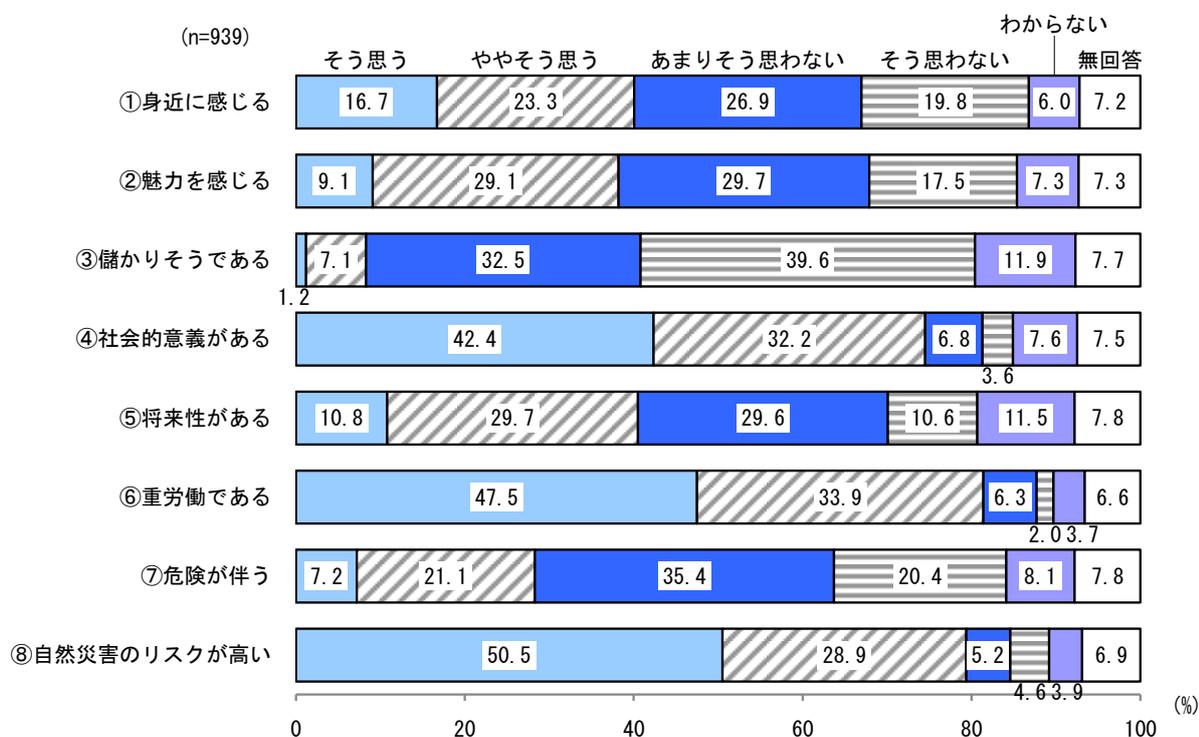
6. 農業に対するイメージ・考え方について

〔1〕職業としての農業に対するイメージ

問18 あなたの職業としての農業に対するイメージを教えてください。

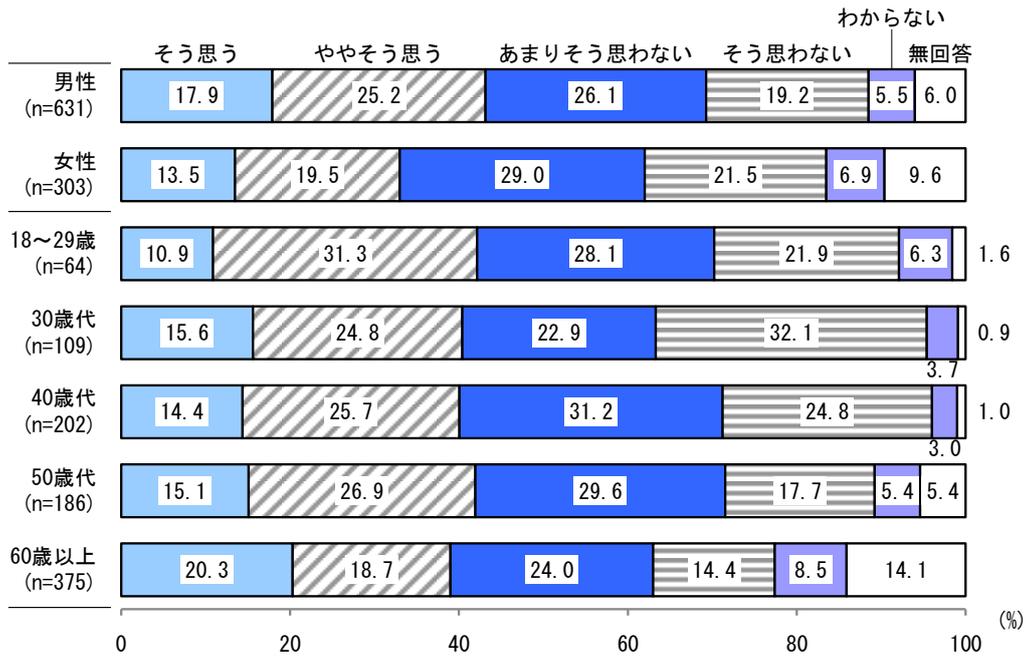
【各項目で○は1つだけ】

【職業としての農業に対するイメージ】



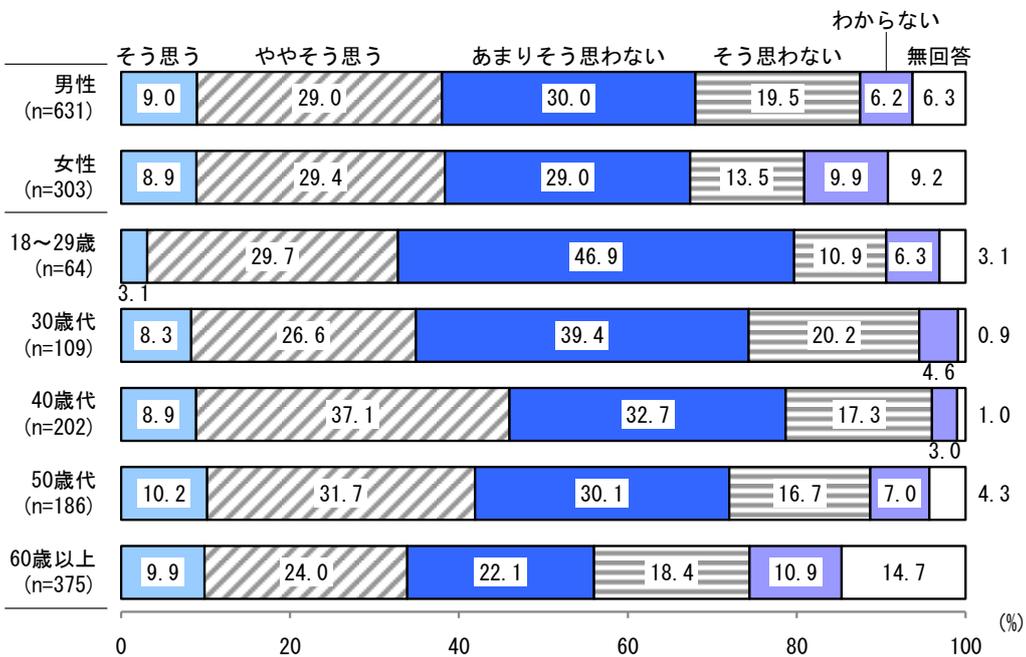
職業としての農業に対するイメージについて、「そう思う」は、「⑧自然災害のリスクが高い」が50.5%と最も多く、次いで、「⑥重労働である」が47.5%、「④社会的意義がある」が42.4%となっている。一方、「そう思わない」は、「③儲かりそうである」が39.6%と最も多くなっている。

【①身近に感じる（男女別・年代別）】



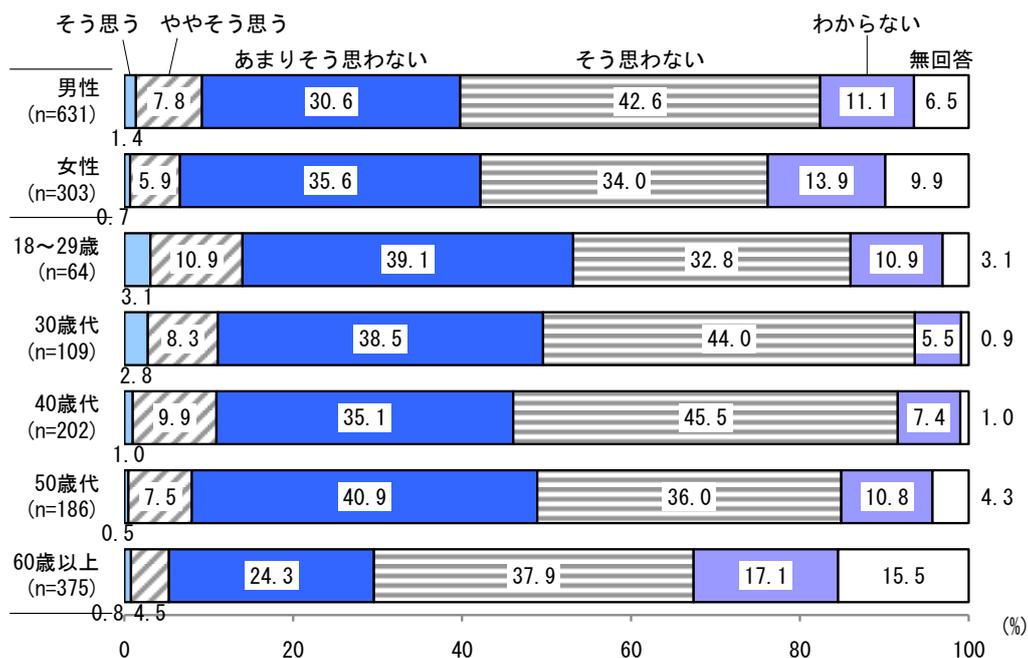
「①身近に感じる」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、「男性」、「60歳以上」で多く、「女性」、「18~29歳」で少なくなっている。

【②魅力を感じる（男女別・年代別）】



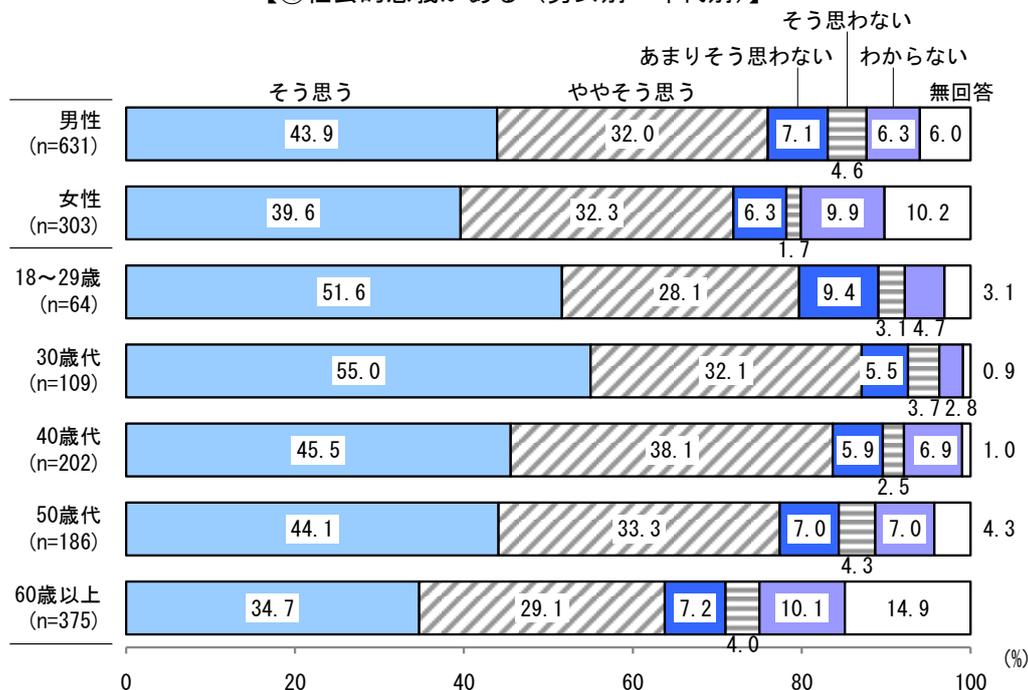
「②魅力を感じる」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、性別による大きな違いは見られず、「18~29歳」で少なくなっている。

【③儲かりそうである（男女別・年代別）】



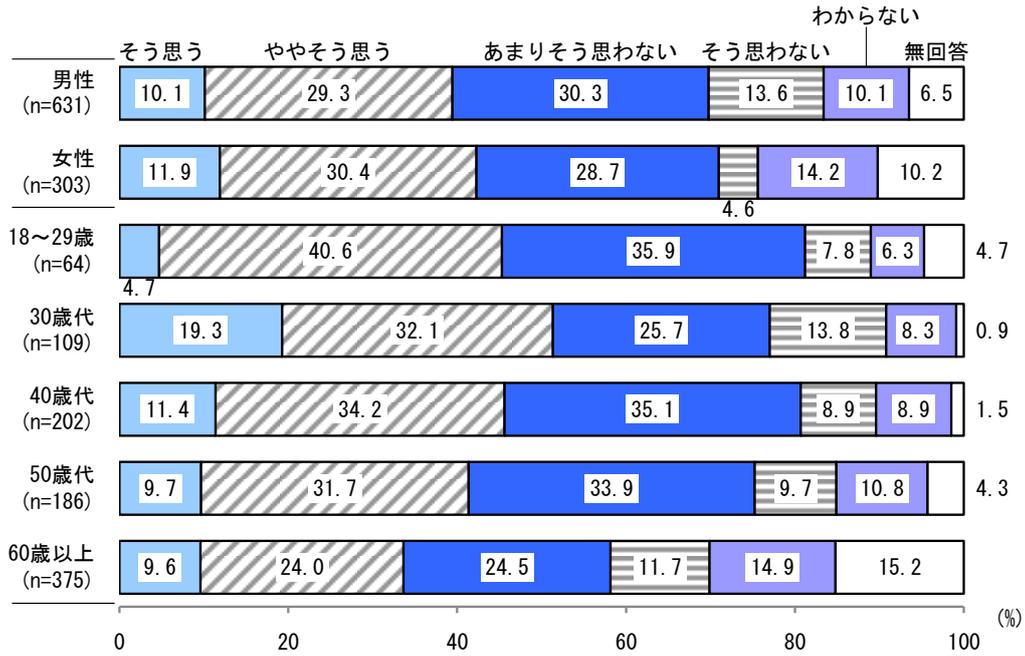
「③儲かりそうである」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、性別や年齢に関わらず少なくなっている。

【④社会的意義がある（男女別・年代別）】



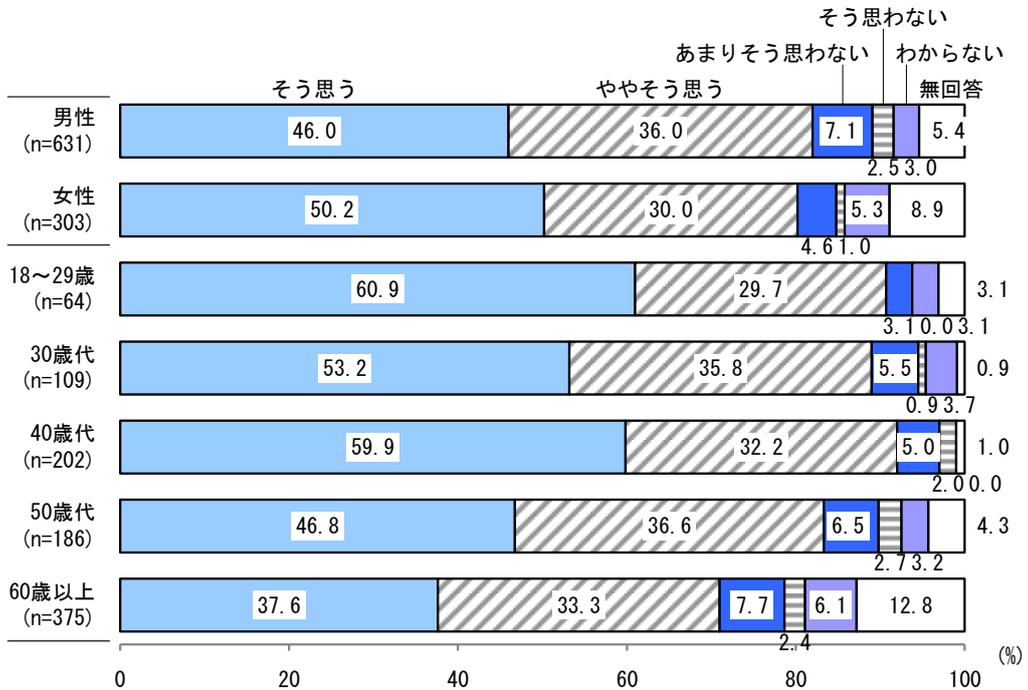
「④社会的意義がある」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、「男性」、「18~29歳」、「30歳代」で多くなっている。

【⑤将来性がある（男女別・年代別）】



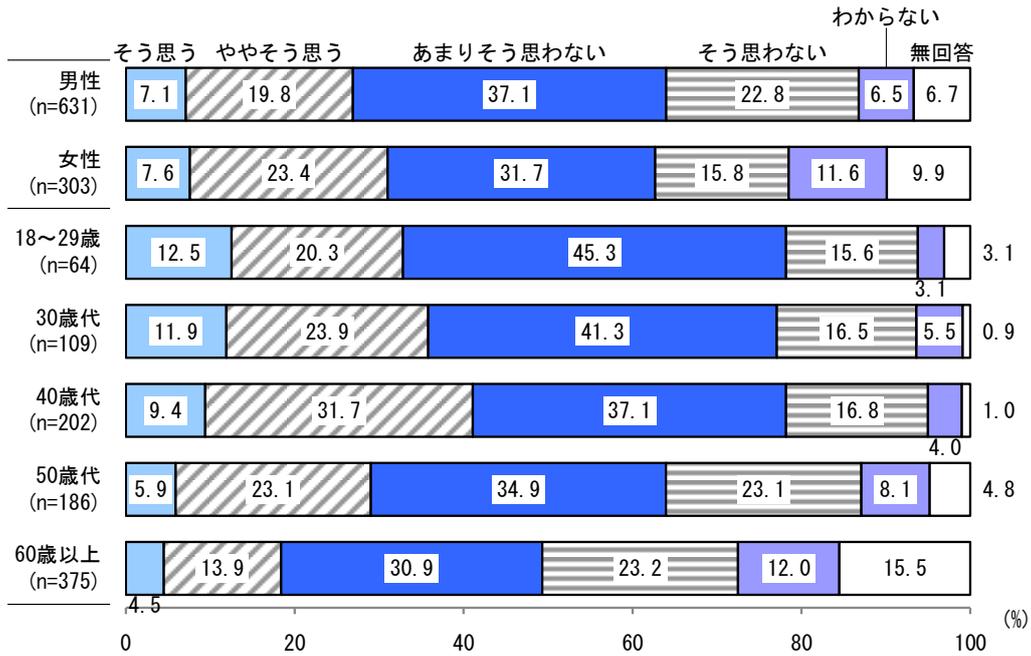
「⑤将来性がある」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、性別による大きな違いは見られず、「30歳代」で多くなっている。

【⑥重労働である（男女別・年代別）】



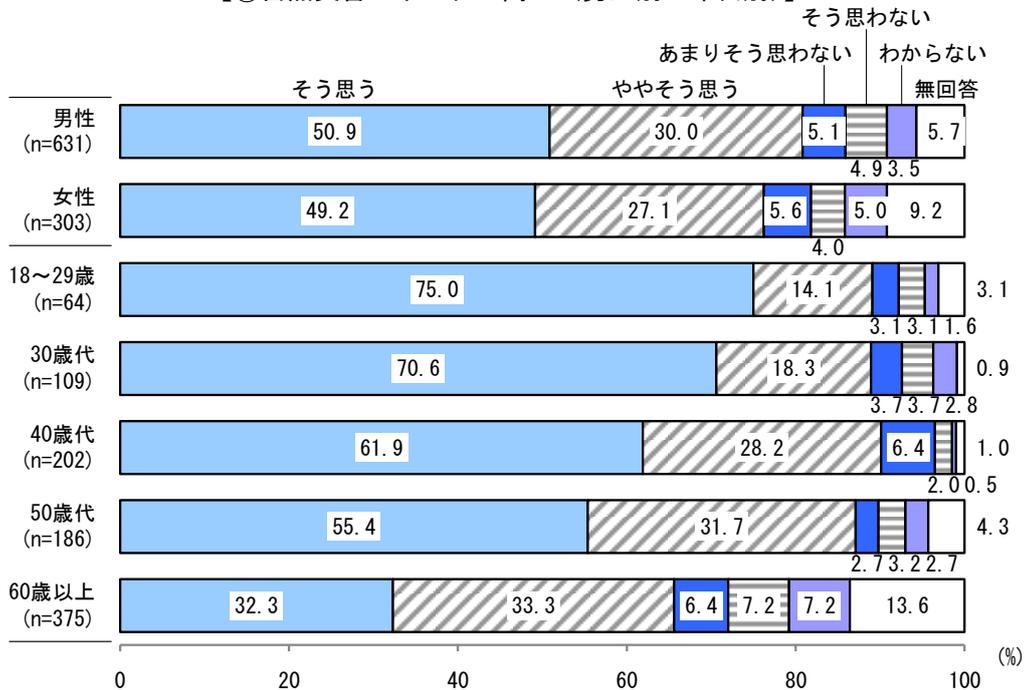
「⑥重労働である」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、「女性」、「40歳代」以下で多くなっている。

【⑦危険が伴う（男女別・年代別）】



「⑦危険が伴う」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、性別による大きな違いは見られず、年齢が低いほど多くなっている。

【⑧自然災害のリスクが高い（男女別・年代別）】

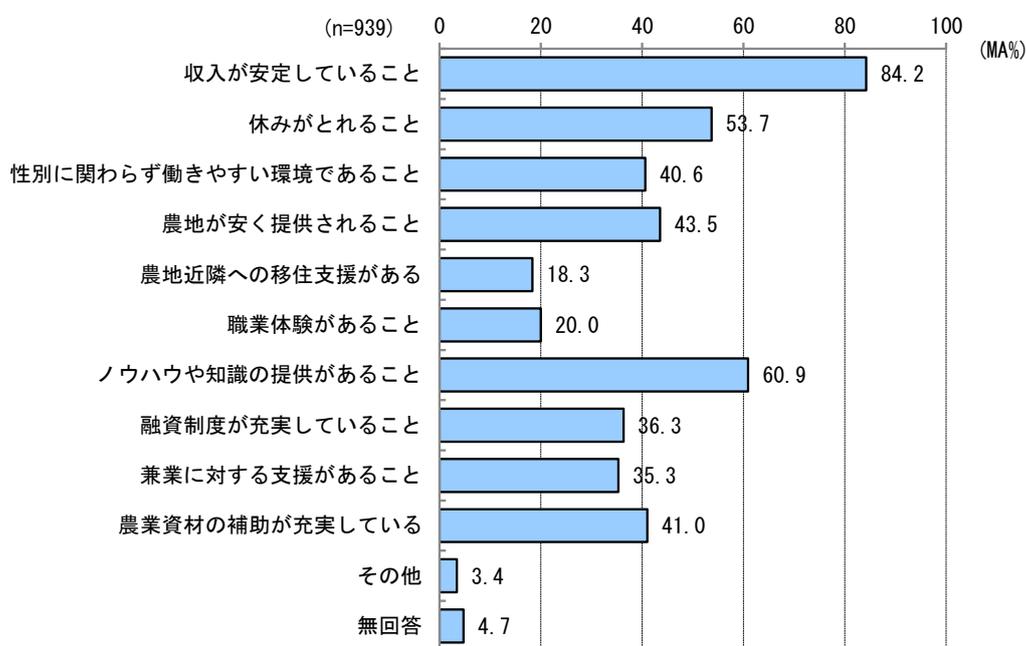


「⑧自然災害のリスクが高い」を男女別・年代別にみると、「そう思う」は、性別による大きな違いは見られず、年齢が低いほど多くなっている。

〔2〕 職業として農業に従事する条件

問19 職業として農業に従事するなら、どのような条件が重要と考えますか。
【〇はあてはまるものすべて】

【職業として農業に従事する条件】



職業として農業に従事する条件は、「収入が安定していること」が84.2%と最も多く、次いで、「ノウハウや知識の提供があること」が60.9%、「休みがとれること」が53.7%、「農地が安く提供されること」が43.5%となっている。

【職業として農業に従事する条件（男女別・年代別）】

		第1位	第2位	第3位
男女別	男性 (n=631)	収入が安定していること 84.0%	ノウハウや知識の提供があること 62.9%	休みがとれること 53.4%
	女性 (n=303)	収入が安定していること 84.8%	ノウハウや知識の提供があること 56.8%	休みがとれること 54.1%
年代別	18～29歳 (n=64)	収入が安定していること 95.3%	休みがとれること 70.3%	ノウハウや知識の提供があること 54.7%
	30歳代 (n=109)	収入が安定していること 88.1%	ノウハウや知識の提供があること 64.2%	休みがとれること 52.3%
	40歳代 (n=202)	収入が安定していること 90.6%	ノウハウや知識の提供があること 65.3%	休みがとれること 62.9%
	50歳代 (n=186)	収入が安定していること 87.1%	ノウハウや知識の提供があること 70.4%	休みがとれること 57.0%
	60歳以上 (n=375)	収入が安定していること 76.8%	ノウハウや知識の提供があること 53.6%	性別に関わらず働きやすい環境であること 47.7%

男女別・年代別にみると、性別や年齢に関わらず、「収入が安定していること」、「ノウハウや知識の提供があること」が上位となっている。

7. その他

〔1〕自由意見

問20 その他、御意見・御感想がございましたら、自由に御記入ください。【自由記述】

【自由意見】※意見は抜粋

・農業への関心について

【耕作放棄地について 4件】
自宅周辺には、耕作放棄地が多くなってきており、雑草や木が生い茂っています。このような放棄地をなんとか活用したいと思いますが、担い手がいないのが現状です。
田を耕作してもらっている。その人達がいなくなったらと思うと不安。
【貸し農園について 12件】
家の近くにも毎年使っていないような農地があり、もったいないと感じます。安く貸し出したりして、畑として使いたい人は多いはず。
安く借りられるようにすると思う。作り方を教えたり、相談にも乗ってくれたりする所があればいい。
貸農園で野菜を作っています。楽しいです。健康の為にもと暑い夏も水やりをして、種をまいて芽が出た時は、充実感が味わえます。
プランター栽培によりミニトマトやおくらなどを育てるうちに農業にも非常に興味を持っています。出来る事なら、近くで貸農園を借りて野菜の栽培などにチャレンジしリタイア後は米以外の野菜は自給自足できる様になるのが夢です。
市民農園、貸し農園が安価で利用し易くなれば良いと思う。
住んでいる地域で気軽に農地を提供している情報を簡単にわかる様にしてはどうか。
高齢化に伴い、休耕地が増えているのではないかと思います。そのような地を希望する者に紹介していただけるようなシステムや、コーディネーターがおられるといいと思います。
【定年後に農業に関わりたい 7件】
定年後に農業に従業できたらと考える人は沢山いるのではないかと思います。気軽に参加できたりするコミュニティーや講習会の開催を積極的に発信いただければと思います。
団塊の世代など、退職者でも元気な人々が多いと思えるので、市が中心になり農家や農業企業へ斡旋を取りもってはいかがでしょうか。
老後の健康のために、夫婦で約30坪程の菜園の耕作をしたい。
シニア世代になった時、ぜひ体験してみたいと思っています。貸農地などを利用して自給自足みたいにできれば楽しいかな…と思っています。
定年後に農業に簡単に携われるしくみがあるとよいと思います。
【農業体験や教室の希望 10件】
米づくり体験を子どもとしたことがあります。種まき～田植え～雑草抜き、肥料やり～収穫～試食までひととおり、させていただきました。子どもにとってもとてもよい経験となりました。草津市内にもそういった体験のできる場があればいいと思います。
身近な作物教室を開催してほしい。
大変興味がありますが、知識がない為、土作りからの教室等開いてほしいです。肥料の事、枝の処理、支柱の扱い方等、夏野菜、冬野菜等一年を通して色々な育て方を指導していただけるとうれしいです。
子どもたちに教育の中でも農業体験を多く取り入れていただけると有難いです。
農業にはすごく興味があります。でも、どのように始めたらいいいのか、この地域では何を育てたら

いいのか、など知識も独学で学ばなければいけないので全くわかりません。農業を体験できる機会などを作っていただけたらうれしいです。

観光農園をもっと多く増やしていけば（イチゴ、メロン等々）。

【その他 9件】

時間とお金に余裕が出来れば、家庭菜園でも始めてみたい

農家さんのお手伝い（アルバイトやボランティア）をしたい。

野菜など植えたり果物などの栽培などしてみたい。そういった類のイベントとかに参加ができればいいなと思っています。

兼業でも農業に携われるようになりたいと思います。今はただ草津市地元の農業が発展していただけるよう願っています。

・担い手の育成と農業経営について

【担い手の育成について 12件】

農業は自然災害が多く、収入にバラツキが出やすいので、若者には、人気がないと思う。税金を安くしてはどうか。

若い方達をもっと頑張れるように支援があればいいのと思います。

安定的な収入を得ることができる職業であれば、若者も安心して農業という職種に興味をもつのではないかと思います。

若者が積極的に農業に従事してくれるように、農業の重要性をアピールしていかなくてはならない。

農業を継続する目度立たない高齢の方と、興味があるが農地やノウハウが無い方への橋渡しを市がしていただけると、若い農家が生まれやすいと思う。

何を主要な物（米？野菜では何を？）として育てていくのかを早めに出して行かないと、ダメかと思われる。長期的に考えていただくと農業をしようと思われる方も出来るのではないかと。

若者に農業の学習できる場を提供して、学習と実習をできる方針を市の行政策として、立ち上げてほしいです。たとえば、山田学区で農業体験し、学習は、農業科（湖南高校）の先生が指導するなど。

後継者として頑張っている若物に対し、語り合える場（飲み会OK）を設定すべきだと思う（補助金支出）。

誰でも農業を起業できる支援がほしい。

【農業の効率化について 5件】

今後の農作物の育成管理には、IoTを使った効率の良いものが大切だと思う。若い世代に、このような技術を習得して農業へ就業する人を増やしていければと思う。

自動化・無人化のための機械の導入を進め、先進農業を拡大するための取り組みには興味があり、若者や子ども達にも興味を魅きやすいのではと思う。

農業用ロボットや農薬、化学肥料、気象予測の高度化などの技術力をうまく活用して、効率的な農業へ進化して欲しい。

農業も田畑とする時代から工場建屋内で出来る発想の転換が必要と思われる。

【法人化について 11件】

農家、個人経営でなく、会社みたいな組織にしてみればどうでしょうか。

農業は家族経営のところほとんどだと思うが、会社として従業員を雇って農業をされている人達もいるようなので、そのような形で農業が発展していけるとよいのではないかと思います。

農業の会社があり社員として働き、賃金を得るところから、スキルを学び、独立したい人はする、

といった他の業種に見られるようなスタイルがもっと広く存在してもよいように思います。
会社を作って、普通の会社員をバイトとして忙しい時期に使って大規模な農地を使って作物を出荷したいと思う。
会社組織にすれば、多くの人がパート等がかかわれると思います。
農家の企業化、大規模化をして若者の働き方の選択肢や高齢者の働く機会を増す政策が必要では。
専業と兼業とは、差別化が必要と思う。
【所得の安定や向上について 6件】
所得の安定しない農家を守る政策・施策が必要と感じます。
職業としての農業がより選択されるように欧州各国のように直接支払による収入の安定化・高所得化が必要だと考えています。
息子が農業関係の仕事をしていますが収入が少ないのに大変な仕事だといつも言っています。
農業でしっかり生活できる様にすれば農業人口も増えると思います。農協などがもっとしっかり指導、支援をするべきではないか。

・消費者のニーズや販売方法について

【安さ 10件】
あおばな館、道の駅（からすま）に時々立寄りますが、他県の直売施設と比較すると高いと感じることが多い。
他の県の野菜と比較すると少し高いような気がしますので、草津市民の割引などあれば、もっと売れるのではないかと思います。
スーパーの販売コーナーをよく見るが、直販売のわりにはスーパーと値が変わらない。なぜ？
安くて新鮮な野菜であれば最高です。
草津ブランド農産物の価格が少し高いように思う。特に「れんこん」「アスパラ」の2品。
【安全性 5件】
無農薬による食物生産への理解を広げ、普及して戴きたいと思います。
見た目よりも、安全性（農薬を使わない）を重視します。それを積極的にアピールする（ラベル、表記）必要があります。
少しぐらい高くても、美味しく、安全なら購入したいと思います。
【販売場所について 22件】
買いやすい環境が必要です。草津市内のスーパーやデパートに、草津産（又は地元産）と大きく表記するか、専用コーナーがあれば分かりやすい。
農産物に興味はありますが、近くに直売所が無く、わざわざ車で行かなければならず、不便です。
あおばな館は、C A F Eも取扱商品も良いのに駅から遠すぎる。d e 愛広場内にC A F Eや農産物直販所があれば、もっと潤うと思う。駅前是他府県からの移住者が多く、農作物を買いたいと思っている人は多い。草津市は、駅前とそれ以外の農村地帯との差がありすぎるので、上手く利用した市政を望みます。
日常的に道の駅、J A直売所等で買物をして居ります。販売所マップがもっと近くに有ればと思って居ります。
草津ブランドをもっと、スーパー等で売ってほしい。特に草津ブランドの品物には、税金で安く、手に入れやすくしてほしい。
あおばな館、道の駅草津等のお店は遠くて行く事が大変です。スーパーの平和堂にもっと滋賀産の旬の野菜、くだものを、ならべてほしいです。
アルプラザ草津で野菜を購入していますが草津の野菜コーナーは常に利用しています。輸送のない

分新鮮な感じがします。
地元の野菜を購入したいと思うが、身近な所では、販売量が少なく入手し難い。どこで購入できるのかの情報を発信して欲しい。
草津駅前などで、草津市産の農産物展みたいなイベントを開催されれば、車に乗れない方でも気軽にのぞきに行くことができ、今まで以上に草津市産物を身近に感じることができると思います。
【販売方法について 15 件】
スーパーマーケットで草津市産の農産物を目にするが、おいしい食べ方を知らない為、購入しづらい。レシピをつけてくれるとありがたい。(贈り物としても使いたいの)
草津産とあれば目につき購入するので記してほしい。
キズものや形が悪い野菜などは価格を少し下げる、量を増やす、など工夫をすれば売れると思います。廃棄を少なくするためにも工夫した販売方法を考えた方が良いでしょう。愛彩菜やおぼなはレシピが思いつかないので購入しにくいですが、料理教室や実演販売などをして作り方を認知してもらえると販売数が増えると思います。
消費者の幅広いニーズに対応した販売方法（規格外で安い物を求める人も多い）で、農家さんが苦勞して作られた物を、自然からの恵みを消費者も共に大事に無駄なくいただけるシステムを考えていただきたい。
某販売店は、農家の方が納品して 2、3 日バックヤードに置いてから店頭で並べられているので残念です。
甘味があって「ほうれん草」はとてもおいしいです。生産者の住所や氏名は必ず読みます。
草津の野菜を使ったおそうざい等、もう少し、各JAで充実していたら良いと思う。自分で購入（野菜）しても、作るものが同じで変りばえしないので……。
クーポン券のような物を発行して、草津の野菜購入を促進させる。
ネット販売、宅配サービスは、どうでしょうか？
【草津ブランドについて 10 件】
「草津ブランド」のイメージがうすいと思います。目立たない。
草津メロンを食べたことがあります。とてもおいしかったです。でも、購入がしにくいと思います。収穫されたとか、情報が全く入ってこないです。
ブランドイメージを高め、農業のあり方を変えていく事で、あこがれる職業にしてほしい。
ブランド農産物に力を入れるよりも、普通の野菜を安心・安全に供給してほしい。

・その他

【地産地消について 6 件】
地産地消は消費者、農家共に今後更に重要になると思う。
最近では農産物販売コーナーがたくさん出来ており購入しやすくなっています。生産者との距離が近いというのは魅力があります。
草津で作られた野菜を食べてみたいと思いました。
これからもなるべく地元の食材を選んで食べていきたいと思っています。
【農業の重要性について 7 件】
田畑がなくなり住宅、お店、駐車場が多くなりました。発展していき便利になるのはうれしいが反面、自然や田んぼがなくなっていくのがさみしい。
農業は自然と密接な関係があり、身近に思える。職業としては取り組めないが、自然に触れる機会が楽しみに感じる。
将来的には農業は重要となると考えています。食料問題は悪化する可能性があるからこそ農業がも

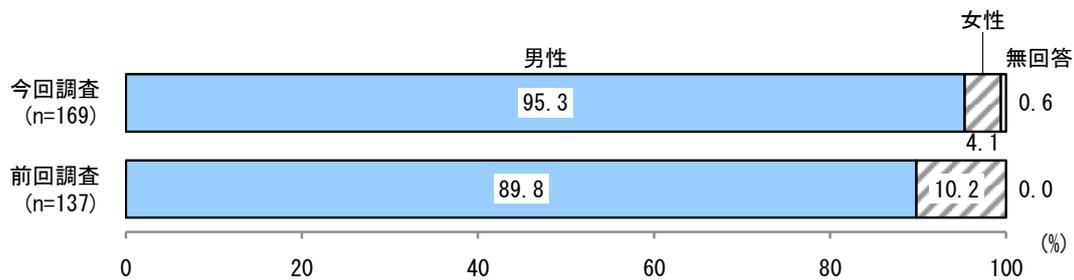
<p>っと身近に感じられる取組を検討して下さい。</p>
<p>農業は国民の「食」を支える重要な職業、安全で安心できる食材を求める方が多いのでこれからもっと農業が発展してほしいと思います。</p>
<p>【自然災害のリスクについて 3件】</p>
<p>自然災害のリスクに対する支援の方策を、長中期的視野で構築して行ってほしいと思います。</p>
<p>最近、特に風水害が甚大な被害をもたらす自然環境である。生産者の方々には感謝しております。これからも引き続きよろしくお願ひしたい。</p>
<p>【アンケートについて 9件】</p>
<p>QRコード等で、オンライン上で回答できると楽ではないかと感じた。</p>
<p>買い物する立場の人と職業として考えている立場の人とにアンケートを分けて回答をもとめるべきである。</p>
<p>県外からの移住者には学区を言われても分かりません。</p>
<p>【その他 45件】</p>
<p>農業の形も変っているのがわかります。草津の農業の新しい形を心から応援しています。</p>
<p>土の改良の為、5年～10年程度は兼業農家として収入を安定させるかどうか。支援が続くかどうか。販売網の拡大の為に、支援があるかどうか。</p>
<p>米が余っていて、後継者不足で先行きが暗い農家を支援するのではなく、今後の未来を担う子どもや、子育て政策にこそ税を使っただきたい。</p>
<p>農業だけでなく、琵琶湖の漁業や林業とも連携させた総合的な振興策が重要ではないか？</p>
<p>月に一回とか、農業の勉強会のお食事会、茶和会など皆さんで楽しい事をすればいいかなあと 생각합니다。</p>
<p>町内会で水路の掃除があるがこれは利用している農業従事者がするべきではないか。</p>
<p>天候に左右され、収入が低く機械は高い。厳しく、なかなか魅力が感じられません。農業のイメージを変える必要があると思います。</p>
<p>湖南農業高校に活躍の場がもっとあればよいなと思います。</p>
<p>草津市は農業に対するPRにもっと力を入れたら良いと思います。</p>

Ⅱ-2. 農業者アンケート

1. 回答者の属性

〔1〕性別

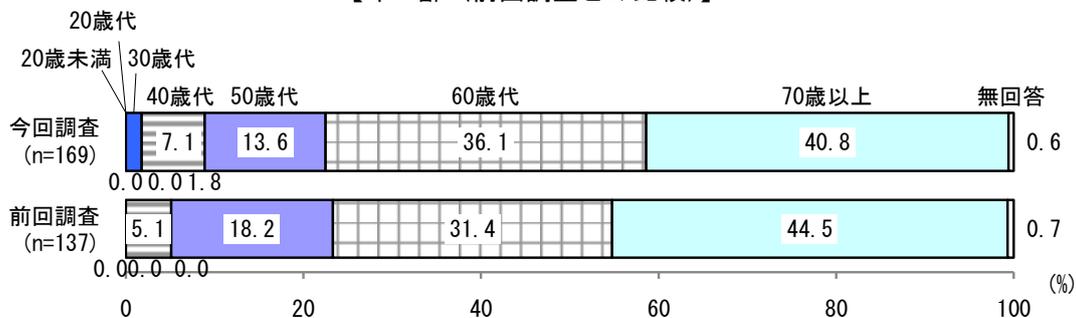
【性別（前回調査との比較）】



性別は、「男性」が95.3%、「女性」が4.1%となっている。

〔2〕年齢

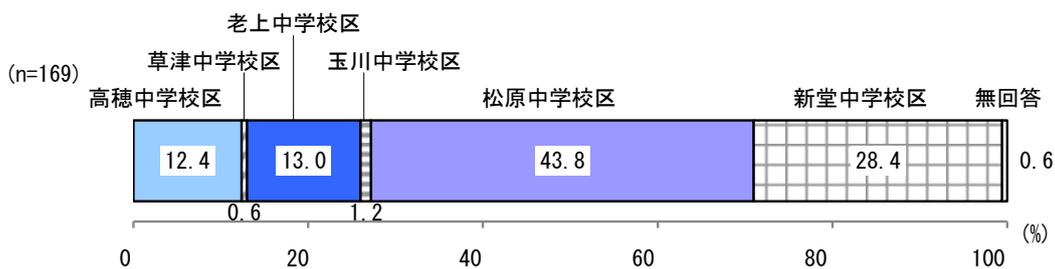
【年齢（前回調査との比較）】



年齢は、「70歳以上」が40.8%と最も多く、次いで、「60歳代」が36.1%となっている。

〔3〕居住地域

【居住地域】

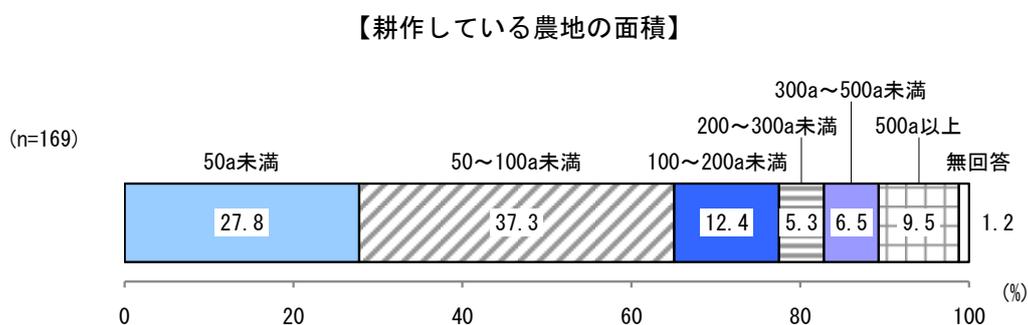


居住地域は、「松原中学校区」が43.8%と最も多く、次いで、「新堂中学校区」が28.4%となっている。

2. 農業経営の現状について

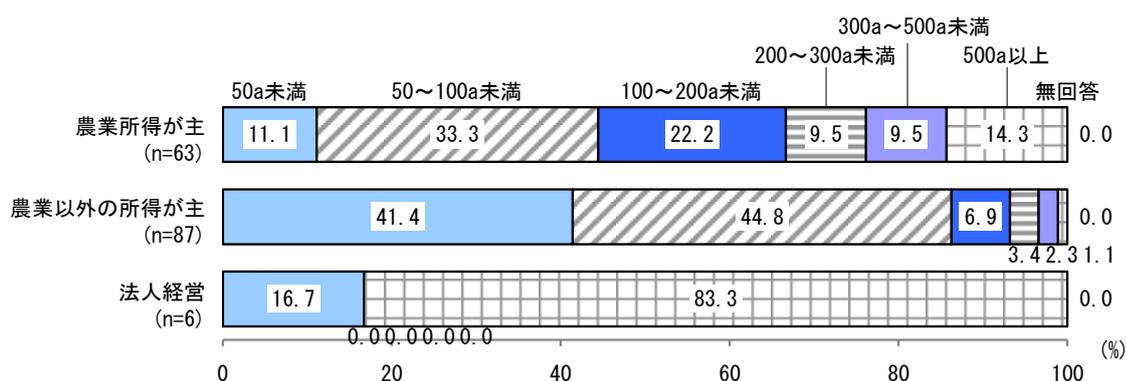
〔1〕耕作している農地の面積

問4 耕作している農地の面積を教えてください。【〇は1つだけ】



耕作している農地の面積は、「50~100a 未満」が 37.3%と最も多く、次いで、「50a 未満」が 27.8%、「100~200a 未満」が 12.4%となっている。

【耕作している農地の面積（農業形態別）】



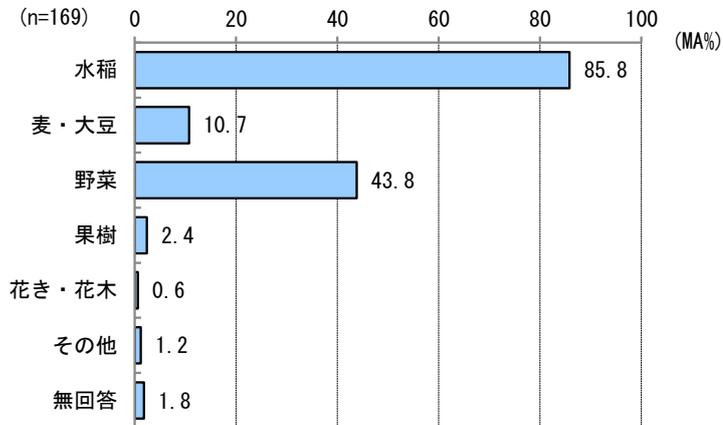
〔※「農業所得が主」は、問6で「個人経営で専業農家」と「個人経営で兼業農家(農業収入の割合が多い)」の合計。
 「農業以外の所得が主」は、「個人経営で兼業農家(農業収入の割合が少ない)」と「自家消費」の合計。〕

農業形態別にみると、「農業所得が主」、「農業以外の所得が主」では「50~100a 未満」がそれぞれ 33.3%、44.8%と最も多く、「法人経営」では「500a 以上」が 83.3%と最も多くなっている。

〔2〕生産している農産物

問5 生産されている農産物を教えてください。【〇はあてはまるものすべて・品目を記述】

【生産している農産物】

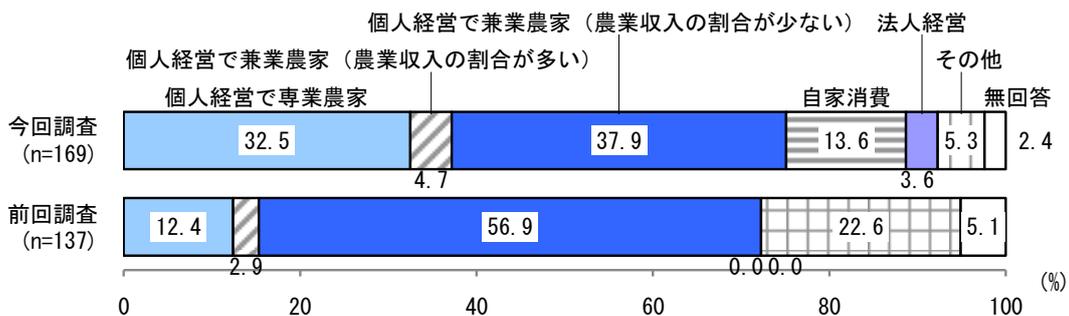


生産している農産物は、「水稲」が85.8%と最も多く、次いで、「野菜」が43.8%、「麦・大豆」が10.7%となっている。

〔3〕農業形態

問6 農業形態を教えてください。【〇は1つだけ】

【農業形態（前回調査との比較）】

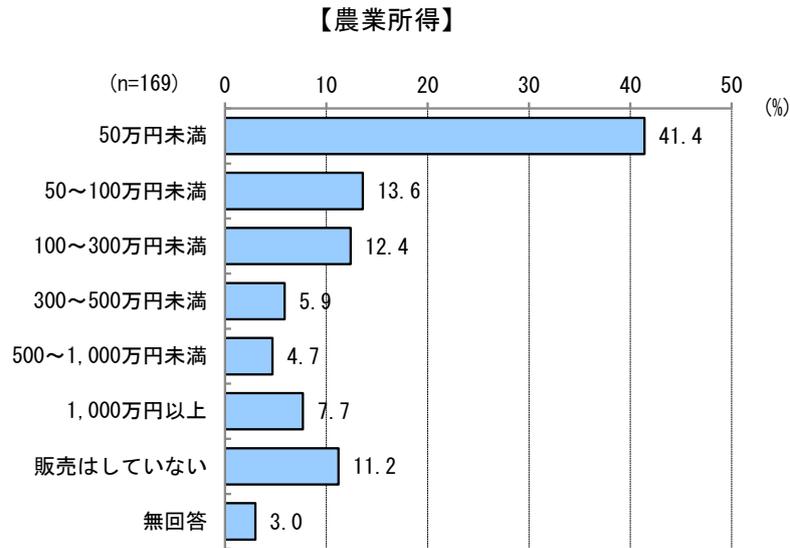


※前回調査は、「農業のみを行っており、農業所得を主としている」、「農業以外の仕事も行っているが、農業所得を主としている」、「農業以外の仕事も行っており、農業以外の所得を主としている」、「その他」。
 「自家消費」、「法人経営」は前回調査なし。

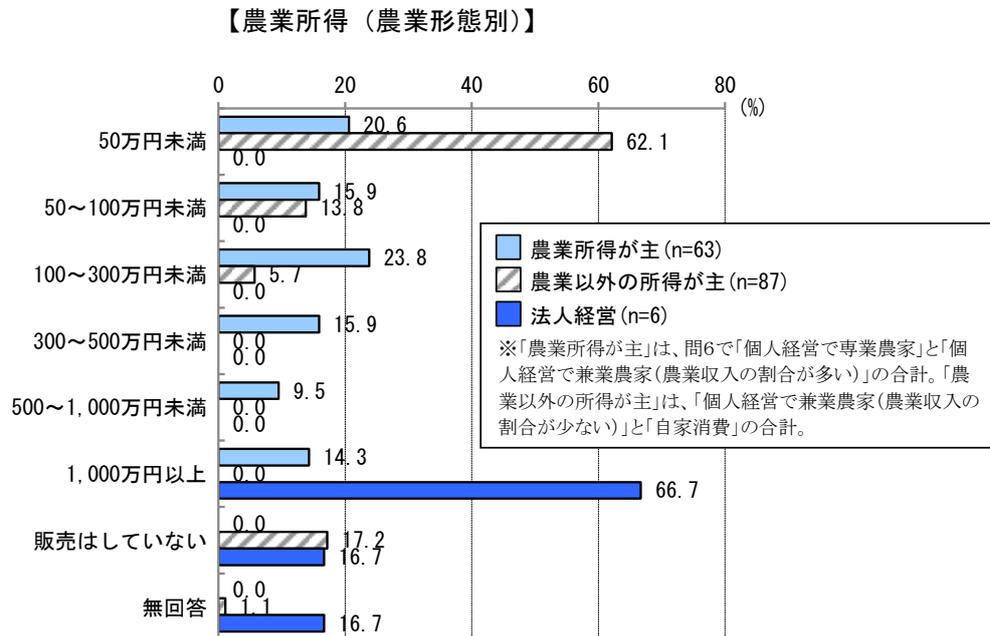
農業形態は、「個人経営で兼業農家（農業収入の割合が少ない）」が37.9%と最も多く、次いで、「個人経営で専業農家」が32.5%、「自家消費」が13.6%、「個人経営で兼業農家（農業収入の割合が多い）」が4.7%、「法人経営」が3.6%となっている。

〔4〕 農業所得

問7 農業所得を教えてください。【〇は1つだけ】



農業所得は、「50万円未満」が41.4%と最も多く、次いで、「50～100万円未満」が13.6%、「100～300万円未満」が12.4%となっている。



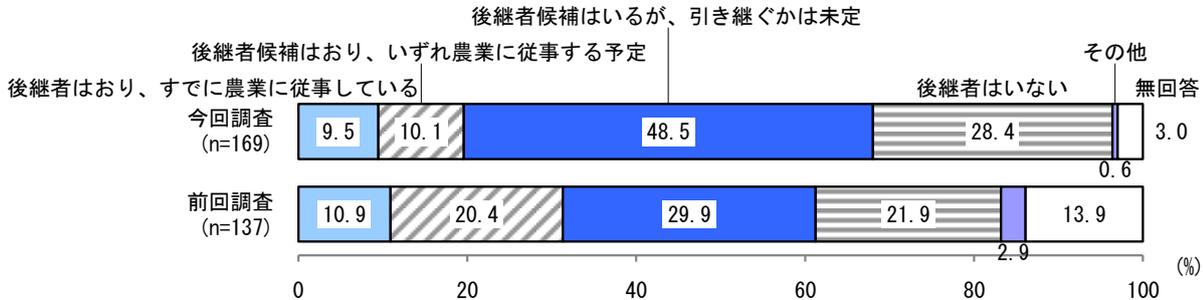
農業形態別にみると、「農業所得が主」では「100～300万円未満」が23.8%と最も多く、「農業以外の所得が主」では「50万円未満」が62.1%と最も多く、「法人経営」では「1,000万円以上」が66.7%と最も多くなっている。

3. 農業の担い手について

〔1〕 農業の後継者の有無

問8 農業の後継者がいますか。【○は1つだけ】

【農業の後継者の有無（前回調査との比較）】



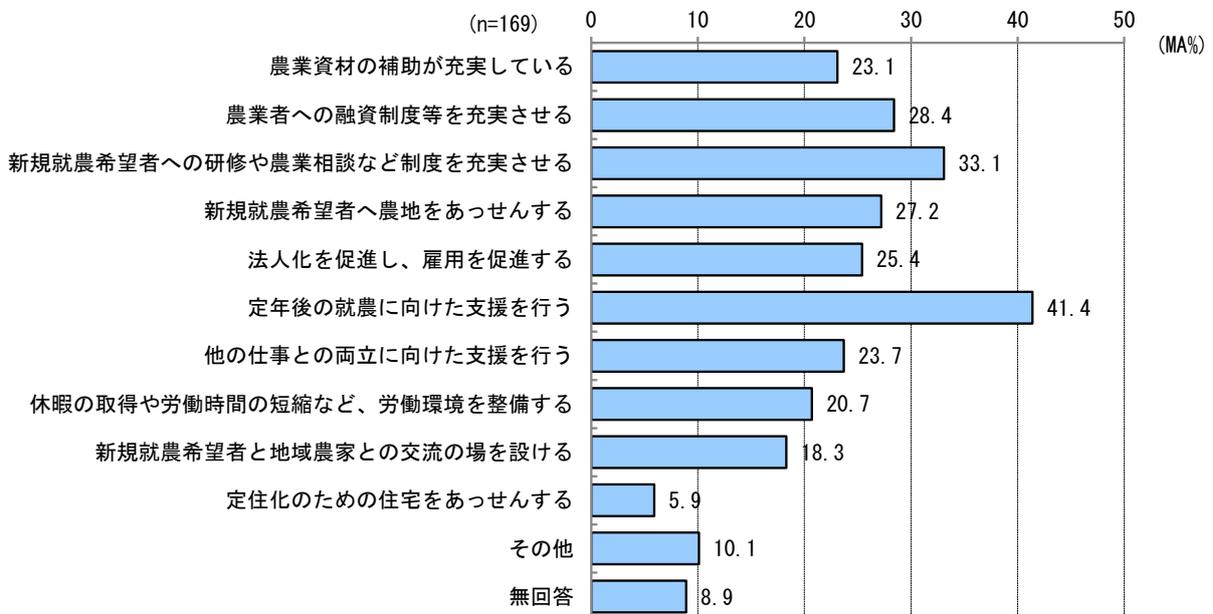
【※「後継者候補はいるが、引き継ぐかは未定」は、前回調査では「現在のところ、後継者の見通しは立っていない。」】

農業の後継者の有無は、「後継者候補はいるが、引き継ぐかは未定」が48.5%と最も多く、次いで、「後継者はいない」が28.4%となっている。前回調査と比較すると、「後継者候補はいるが、引き継ぐかは未定」が18.6%増加している。

〔2〕 農業の担い手確保に必要と思うこと

問9 農業の担い手確保には、何が必要と思いますか。【○はあてはまるものすべて】

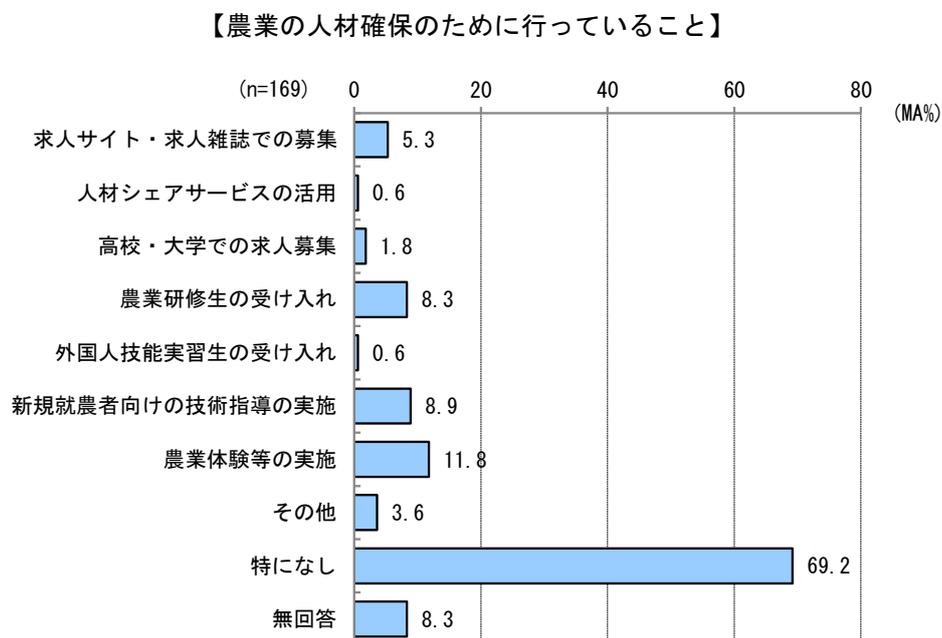
【農業の担い手確保に必要と思うこと】



農業の担い手確保に必要と思うことは、「定年後の就農に向けた支援を行う」が41.4%と最も多く、次いで、「新規就農希望者への研修や農業相談など制度を充実させる」が33.1%、「農業者への融資制度等を充実させる」が28.4%、「新規就農希望者へ農地をあっせんする」が27.2%、「法人化を促進し、雇用を促進する」が25.4%となっている。

〔3〕農業の人材確保のためにやっていること

問10 農業の人材確保のためにやっている、または検討していることはありますか。
【○はあてはまるものすべて】

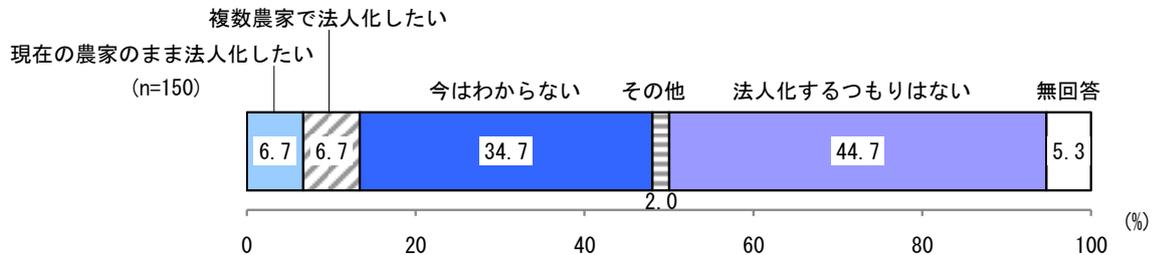


農業の人材確保のためにやっている、または検討していることは、「農業体験等の実施」が 11.8%と最も多く、次いで、「新規就農者向けの技術指導の実施」が 8.9%、「農業研修生の受け入れ」が 8.3%となっている。「特になし」は 69.2%となっている。

〔4〕法人化の意向

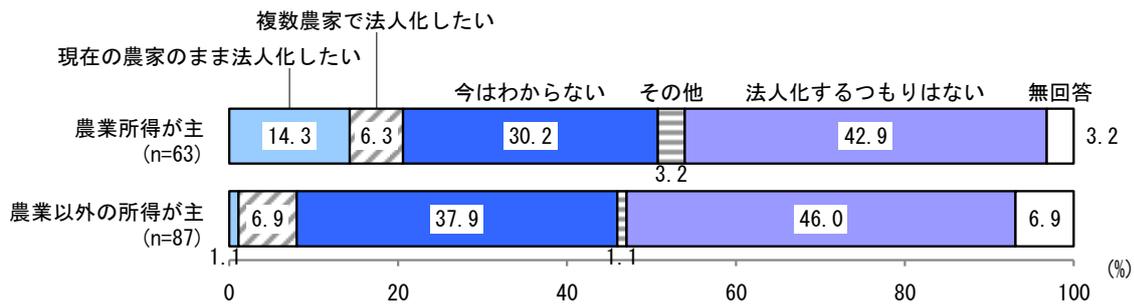
問11は法人化していない方（問6で「1. 個人経営で専業農家」、「2. 個人経営で兼業農家（農業収入の割合が多い）」、「3. 個人経営で兼業農家（農業収入の割合が少ない）」、「4. 自家消費」を選択した方）にお聞きます。
 問11 今後法人化する意向がありますか。【○は1つだけ】

【法人化の意向】



法人化の意向は、「法人化するつもりはない」が 44.7%と最も多く、次いで、「今はわからない」が 34.7%となっている。

【法人化の意向（農業形態別）】

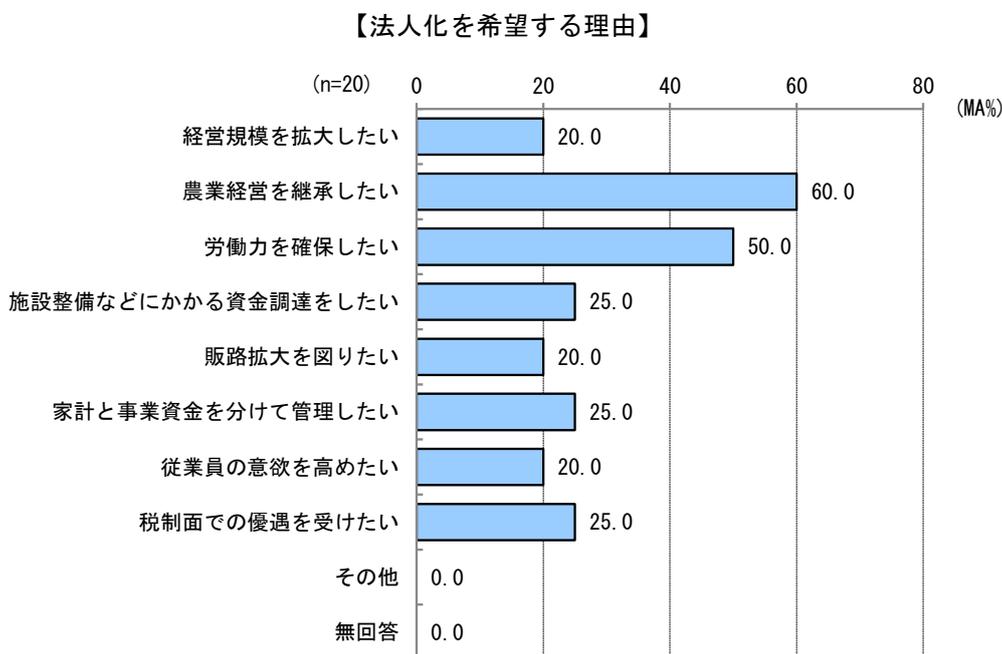


〔※「農業所得が主」は、問6で「個人経営で専業農家」と「個人経営で兼業農家（農業収入の割合が多い）」の合計。
 「農業以外の所得が主」は、「個人経営で兼業農家（農業収入の割合が少ない）」と「自家消費」の合計。〕

農業形態別にみると、「現在の農家のまま法人化したい」での差が大きく（13.2%差）、「農業所得が主」では 14.3%、「農業以外の所得が主」では 1.1%となっている。

〔5〕法人化を希望する理由

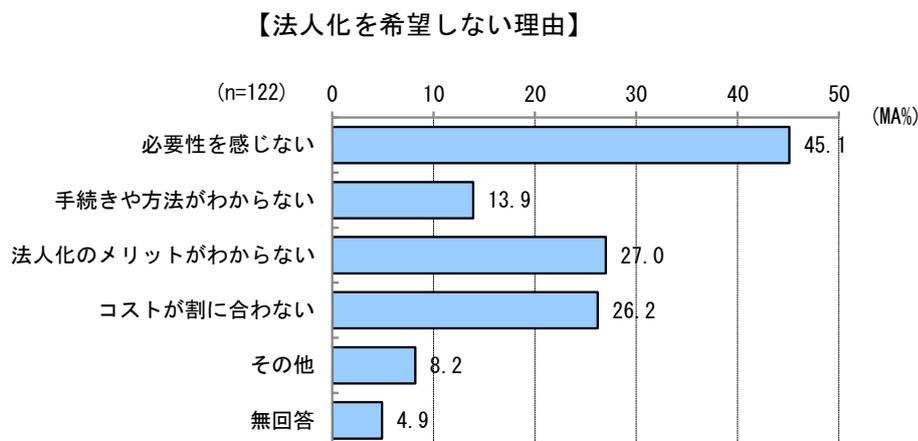
問11で「1. 現在の農家のまま法人化したい」、「2. 複数農家で法人化したい」を選択した方にお聞きします。
問11-1 法人化を希望する理由を教えてください。【〇はあてはまるものすべて】



法人化を希望する理由は、「農業経営を継承したい」が60.0%と最も多く、次いで、「労働力を確保したい」が50.0%となっている。

〔6〕法人化を希望しない理由

問11で「3. 今はわからない」、「4. その他」、「5. 法人化するつもりはない」を選択した方にお聞きします。
問11-2 法人化を希望しない理由を教えてください。【〇はあてはまるものすべて】

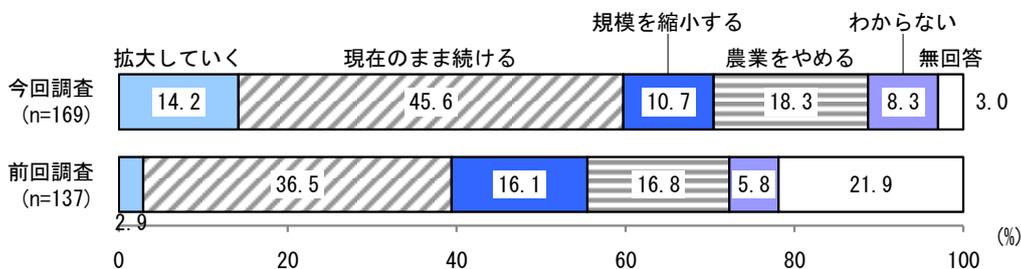


法人化を希望しない理由は、「必要性を感じない」が45.1%と最も多く、次いで、「法人化のメリットがわからない」が27.0%、「コストが割に合わない」が26.2%となっている。

〔7〕 今後の農業経営の見通し

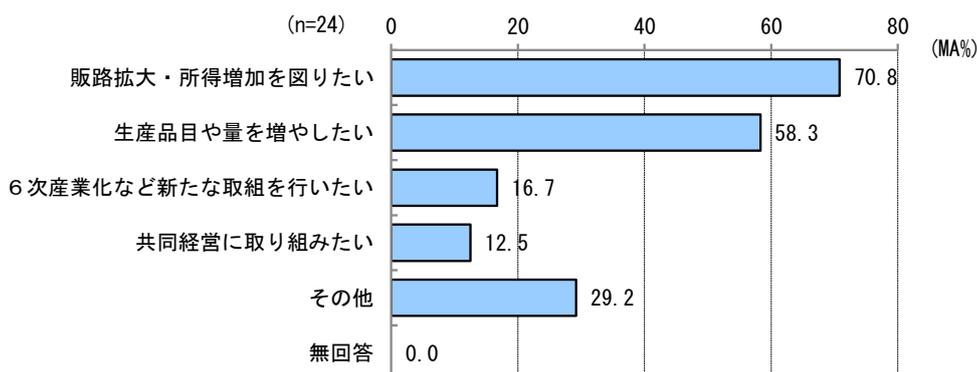
問12 今後の農業経営について、どのようにお考えですか。①今後の見通し【〇は1つ】と、②その理由【〇はあてはまるものすべて】をお答えください。

【①今後の農業経営の見通し（前回調査との比較）】



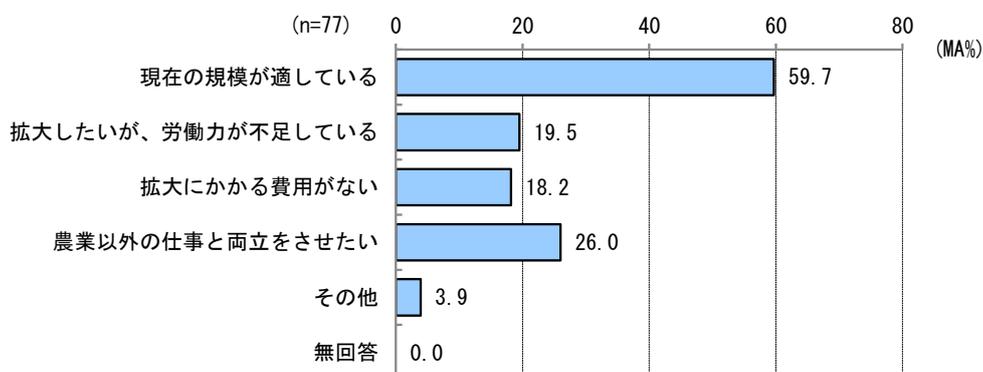
今後の農業経営についての見通し、「現在のまま続ける」が45.6%と最も多く、次いで、「農業をやめる」が18.3%、「拡大していく」が14.2%となっている。前回調査と比較すると、「拡大していく」が11.3%増加している。

【②その理由（拡大していく）】



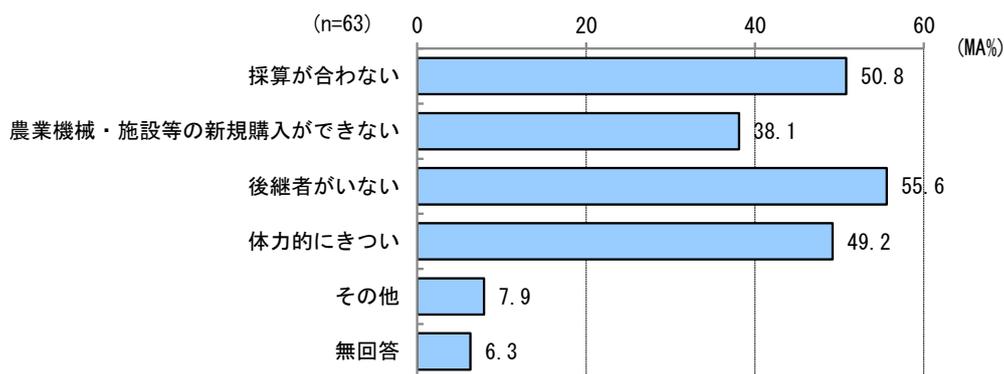
拡大していく理由は、「販路拡大・所得増加を図りたい」が70.8%と最も多く、次いで、「生産品目や量を増やしたい」が58.3%となっている。

【②その理由（現在のまま続ける）】



現在のまま続ける理由は、「現在の規模が適している」が59.7%と最も多く、次いで、「農業以外の仕事と両立をさせたい」が26.0%となっている。

【②その理由（規模を縮小する・農業をやめる・わからない）】

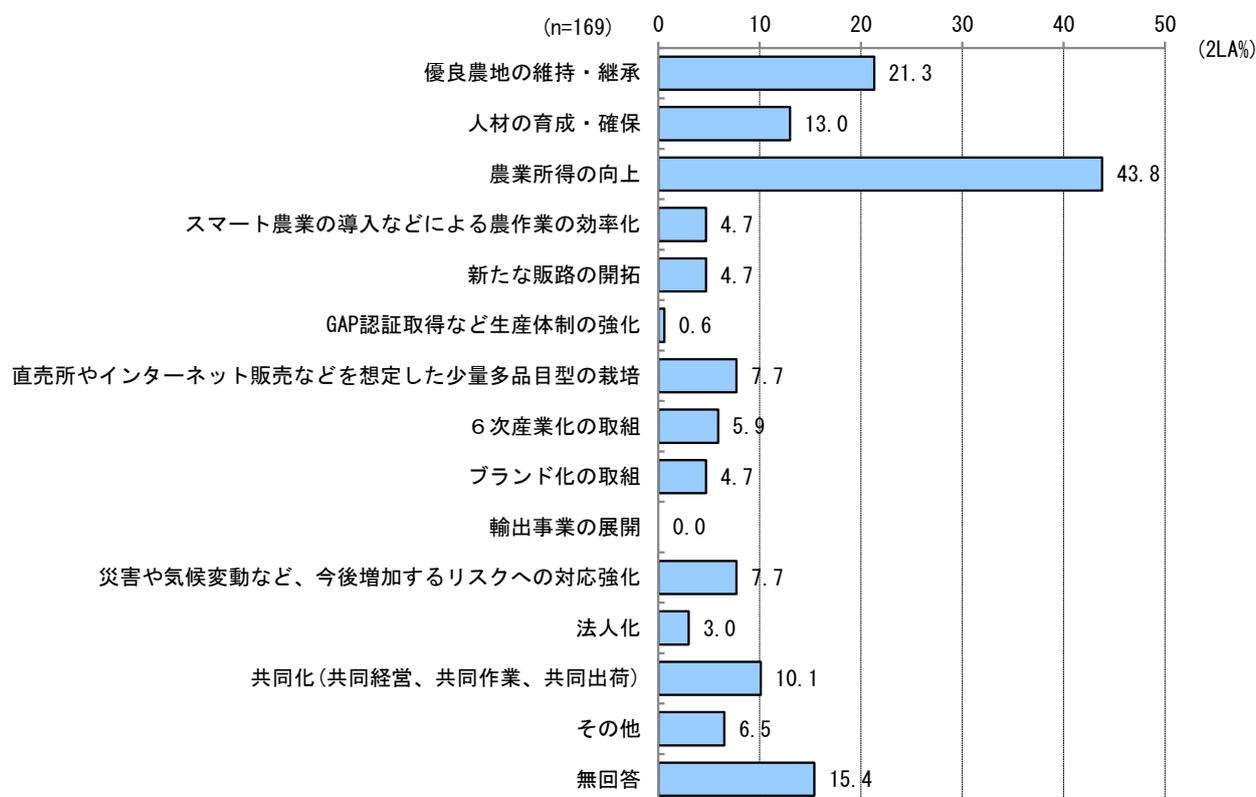


規模を縮小する・農業をやめる等の理由は、「後継者がいない」が55.6%と最も多く、次いで、「採算が合わない」が50.8%、「体力的にきつい」が49.2%となっている。

【8】農業経営にあたって、重視していること

問13 農業経営にあたって、重視している、または今後重視したいことは何ですか。
【〇は2つまで】

【農業経営にあたって、重視していること】

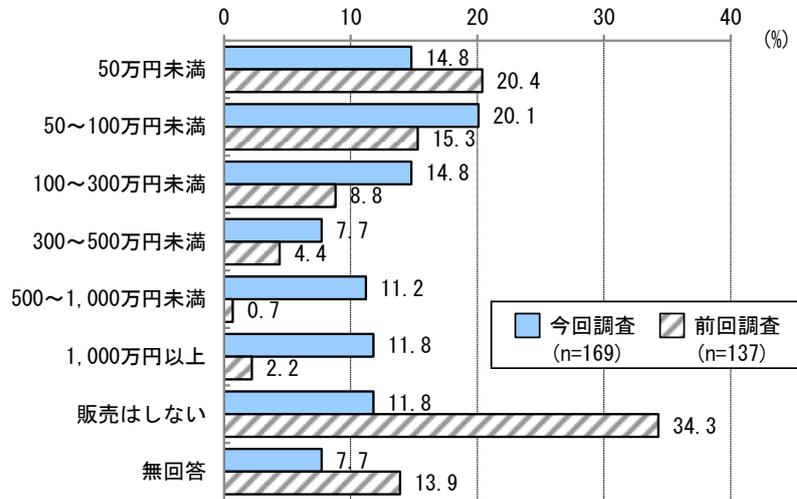


農業経営にあたって、重視していることは、「農業所得の向上」が43.8%と最も多く、次いで、「優良農地の維持・継承」が21.3%、「人材の育成・確保」が13.0%、「共同化(共同経営、共同作業、共同出荷)」が10.1%となっている。

〔9〕 どのくらいの農業所得を目標としたいか

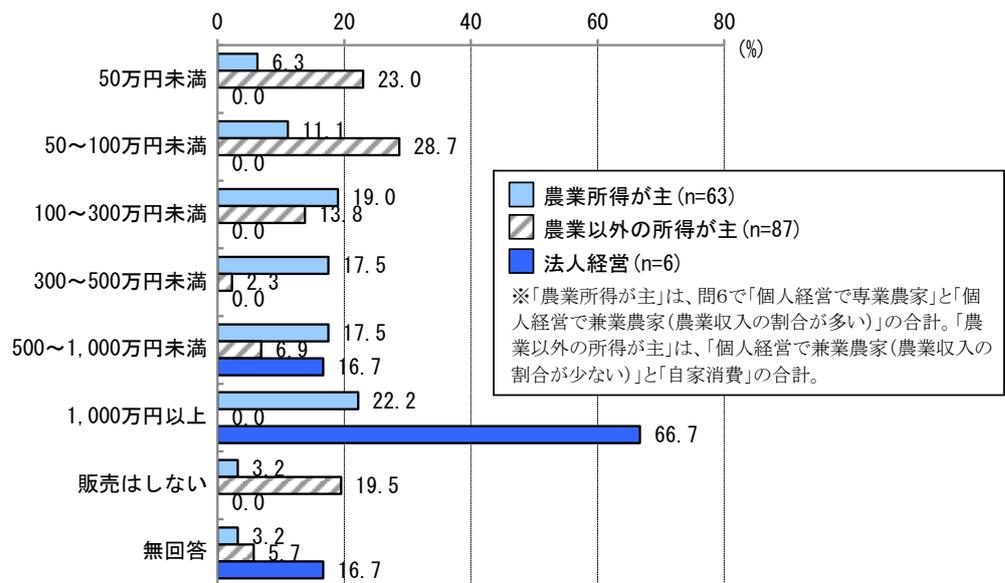
問14 今後、どのくらいの農業所得を目標としたいですか。【○は1つだけ】

【どのくらいの農業所得を目標としたいか（前回調査との比較）】



どのくらいの農業所得を目標としたいかは、「50～100万円未満」が20.1%と最も多く、次いで、「50万円未満」、「100～300万円未満」がそれぞれ14.8%となっている。前回調査と比較すると、「500～1,000万円未満」が10.5%、「1,000万円以上」が9.6%増加し、「販売はしない」が22.5%減少している。

【どのくらいの農業所得を目標としたいか（農業形態別）】

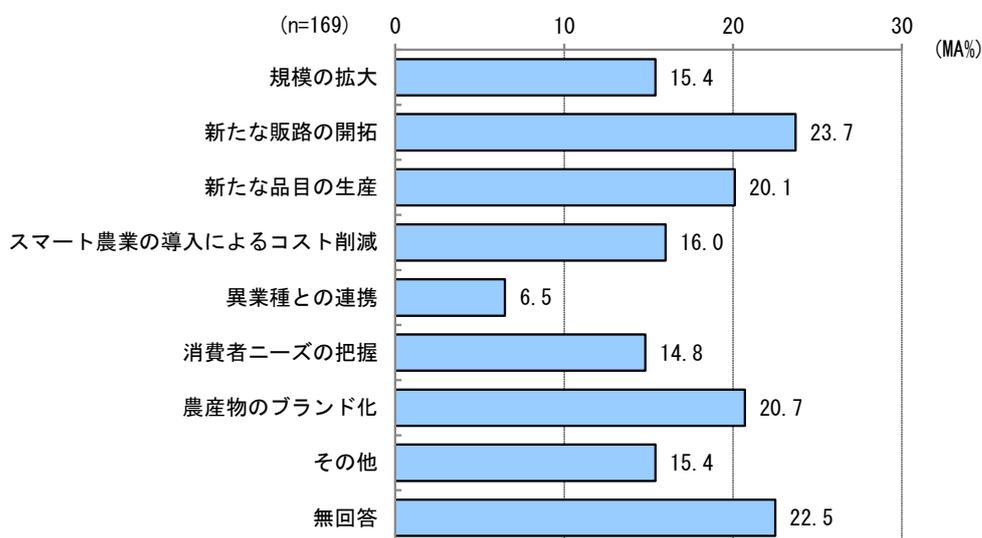


農業形態別にみると、「農業所得が主」、「法人経営」では「1,000万円以上」がそれぞれ22.2%、66.7%と最も多く、「農業以外の所得が主」では「50～100万円未満」が28.7%と最も多くなっている。

〔10〕 農業所得の向上に向けて取り組んでいること

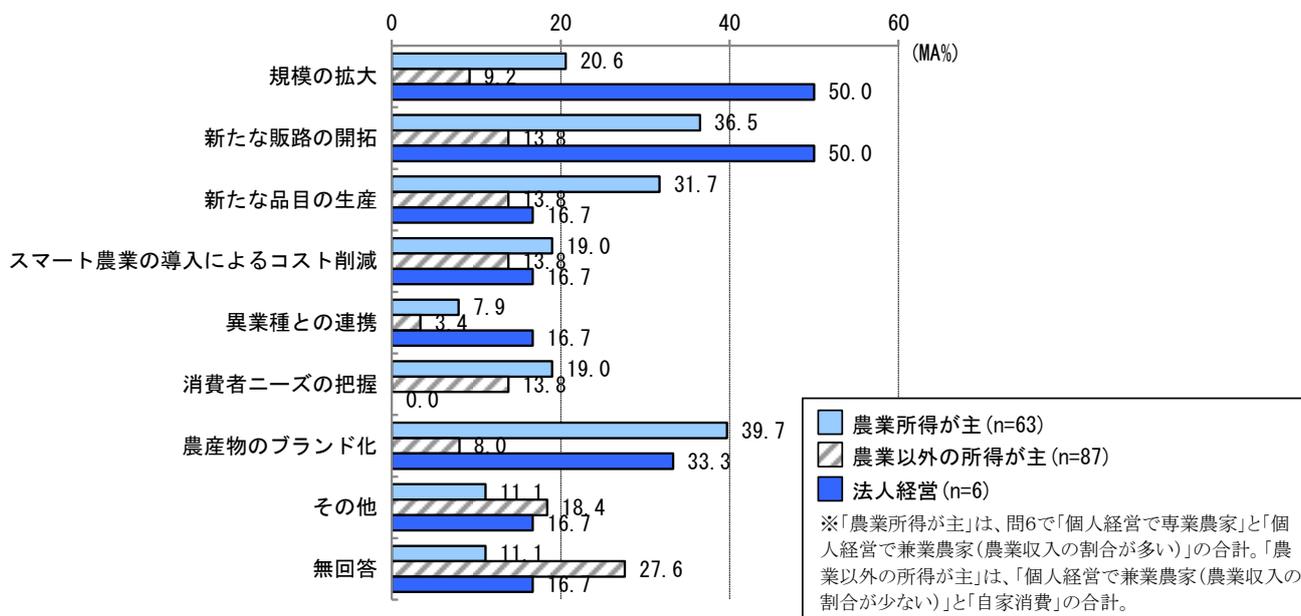
問15 農業所得の向上に向けて取り組んでいること、または今後、取り組みたいことはありますか。【○はあてはまるものすべて】

【農業所得の向上に向けて取り組んでいること】



農業所得の向上に向けて取り組んでいることは、「新たな販路の開拓」が23.7%と最も多く、次いで、「農産物のブランド化」が20.7%、「新たな品目の生産」が20.1%となっている。

【農業所得の向上に向けて取り組んでいること（農業形態別）】



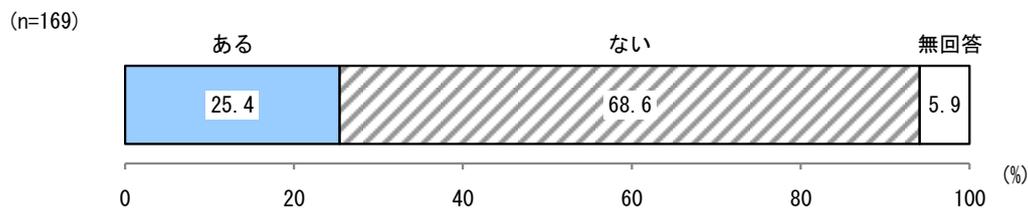
農業形態別にみると、「農業所得が主」では「農産物のブランド化」が39.7%と最も多く、次いで、「新たな販路の開拓」が36.5%となっている。「農業以外の所得が主」では「新たな販路の開拓」、「新たな品目の生産」、「スマート農業の導入によるコスト削減」、「消費者ニーズの把握」がそれぞれ13.8%と最も多くなっている。「法人経営」では「規模の拡大」、「新たな販路の開拓」がそれぞれ50.0%と最も多くなっている。

4. 農地について

〔1〕耕作していない農地の有無

問16 所有している農地で耕作していない農地はありますか。【○は1つ】

【耕作していない農地の有無】



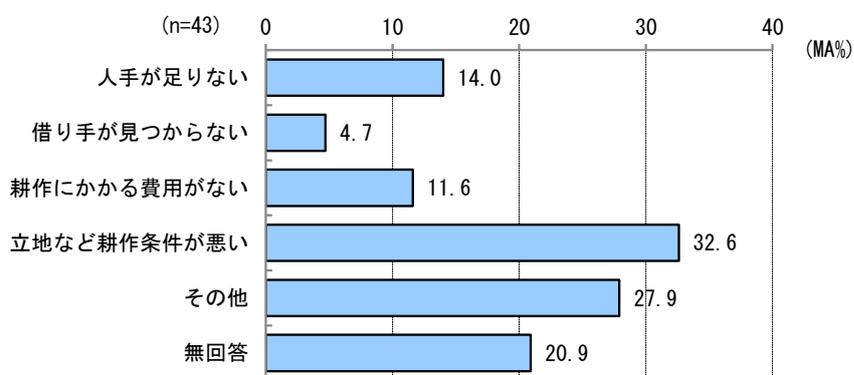
耕作していない農地の有無は、「ある」が25.4%、「ない」が68.6%となっている。

〔2〕耕作していない理由

問16で「1. ある」を選択した方にお聞きします。

問16-1 耕作していない理由は何ですか。【○はあてはまるものすべて】

【耕作していない理由】



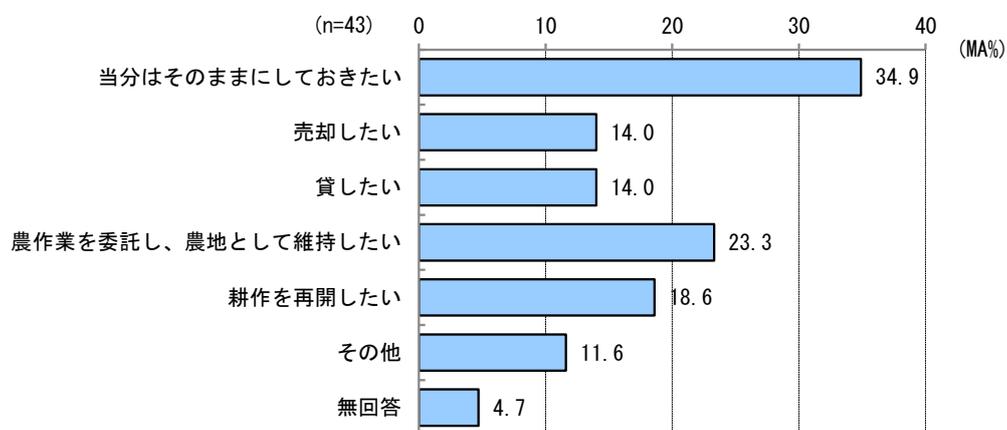
耕作していない理由は、「立地など耕作条件が悪い」が32.6%と最も多く、次いで、「人手が足りない」が14.0%、「耕作にかかる費用がない」が11.6%となっている。

【3】今後の利用意向

問16で「1. ある」を選択した方にお聞きします。

問16-2 今後、どのように利用したいと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

【今後の利用意向】



今後の利用意向は、「当分はそのままにしておきたい」が34.9%と最も多く、次いで、「農作業を委託し、農地として維持したい」が23.3%、「耕作を再開したい」が18.6%となっている。

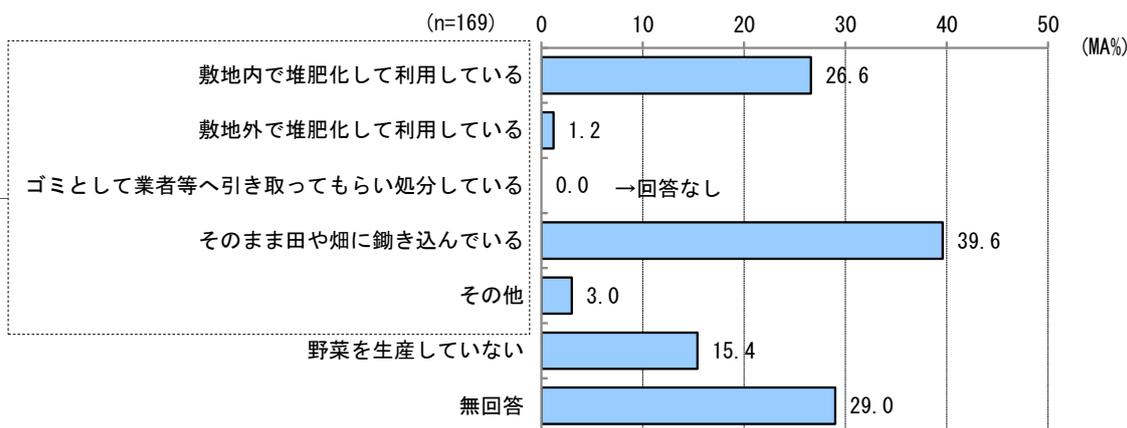
5. 野菜残さについて

〔1〕野菜残さ（収穫後の葉や茎など）をどのように処理しているか

問17 野菜を生産されている方にお聞きします。野菜残さ（収穫後の葉や茎など）をどのように処理していますか。【あてはまるものすべて○】

「3. ゴミとして業者等へ引き取ってもらい処分している」を選択の場合は、業者に支払っている金額を教えてください。

【野菜残さをどのように処理しているか】



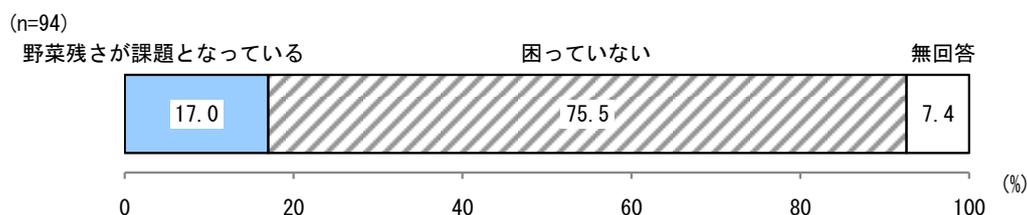
野菜残さをどのように処理しているかは、「そのまま田や畑に鋤き込んでいる」が39.6%と最も多く、次いで、「敷地内で堆肥化して利用している」が26.6%となっている。

〔2〕野菜残さの処理が課題となっているか

野菜を生産している方のみ

問18 野菜残さの処理が課題となっていますか。【○は1つ】

【野菜残さの処理が課題となっているか】

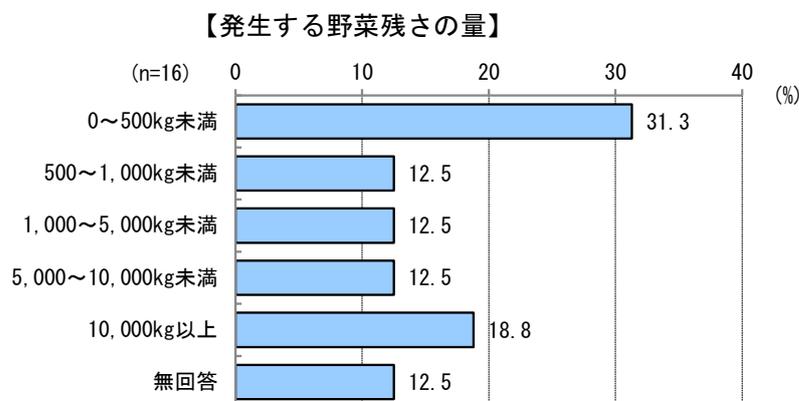


野菜残さの処理が課題となっているかは、「野菜残さが課題となっている」が17.0%、「困っていない」が75.5%となっている。

〔3〕発生する野菜残さの量

問18で「1. 野菜残さが課題となっている」を選択した方にお聞きします。

問18-1 発生する野菜残さの量を教えてください。【数字を記入】

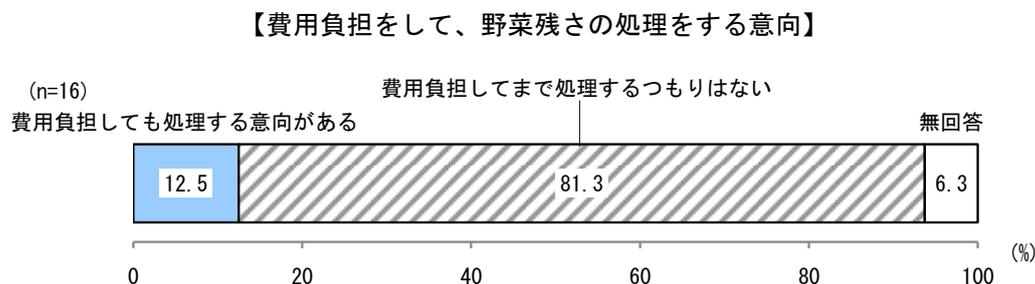


発生する野菜残さの量（年間およそ kg）は、「0~500kg 未満」が 31.3%と最も多く、次いで、「10,000kg 以上」が 18.8%となっている。

〔4〕費用負担をして、野菜残さの処理をする意向

問18で「1. 野菜残さが課題となっている」を選択した方にお聞きします。

問18-2 今後、費用負担をしても、野菜残さの処理をする意向はありますか。

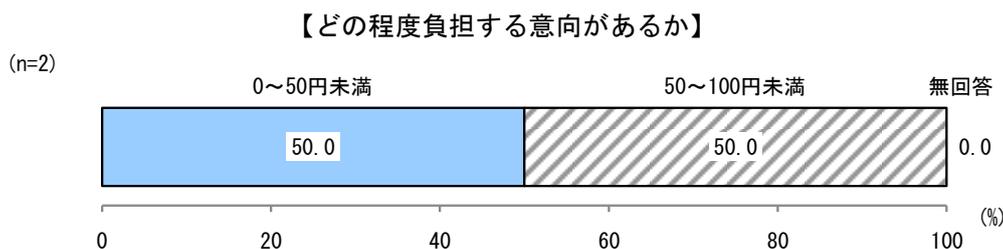


費用負担をして、野菜残さの処理をする意向は、「費用負担しても処理する意向がある」が 12.5%、「費用負担してまで処理するつもりはない」が 81.3%となっている。

〔5〕どの程度負担する意向があるか

問18-2で「1. 費用負担しても処理する意向がある」を選択した方にお聞きします。

問18-3 どの程度負担する意向がありますか。【数字を記入】



どの程度負担する意向があるか（上限円/kg まで）は、「0~50 円未満」、「50~100 円未満」がそれぞれ 50.0%となっている。

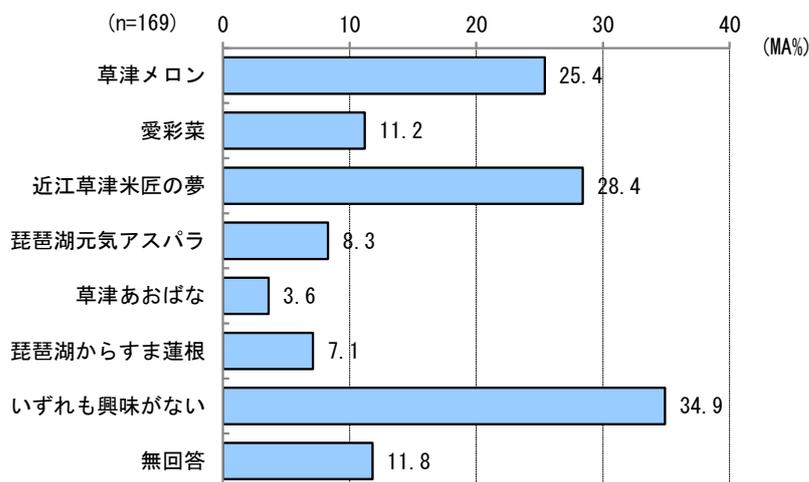
6. ブランド化について

〔1〕生産に興味がある草津ブランド農産物

問19 草津市では、市内の魅力的な地域資源を「草津ブランド」として認証しています。草津ブランド農産物のうち、どの農産物の生産に興味がありますか。

【〇はあてはまるものすべて】

【生産に興味がある草津ブランド農産物】

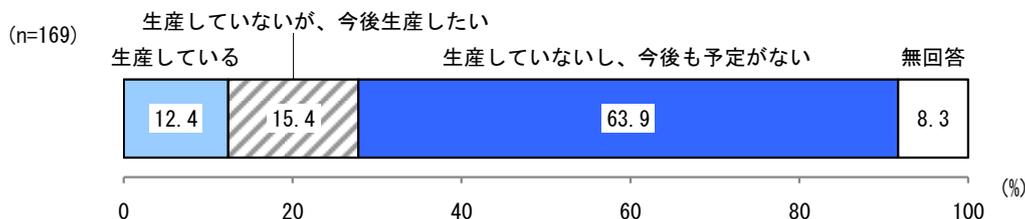


生産に興味がある草津ブランド農産物は、「近江草津米匠の夢」が28.4%と最も多く、次いで、「草津メロン」が25.4%となっている。「いずれも興味がない」は34.9%となっている。

〔2〕草津市のブランド農産物の栽培状況

問20 草津市のブランド農産物を栽培していますか。【〇は1つ】

【草津市のブランド農産物の栽培状況】



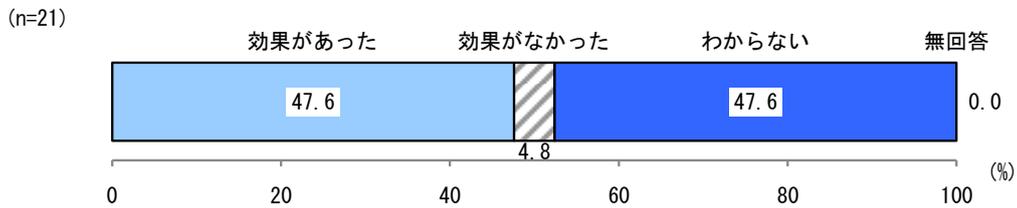
草津市のブランド農産物の栽培状況は、「生産している」が12.4%、「生産していないが、今後生産したい」が15.4%、「生産していないし、今後も予定がない」が63.9%となっている。

【3】ブランド認証の効果

問20で「1. 生産している」を選択した方にお聞きします。

問20-1 ブランド認証の効果を実感していますか。【○は1つ】

【ブランド認証の効果】



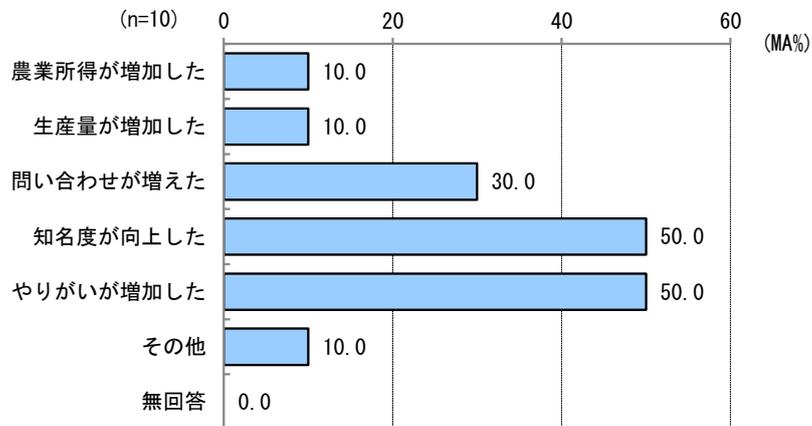
ブランド認証の効果は、「効果があった」が 47.6%、「効果がなかった」が 4.8%、「わからない」が 47.6%となっている。

【4】効果を実感している点

問20-1で「1. 効果があった」を選択した方にお聞きします。

問20-2 どの点で実感していますか。

【効果を実感している点】



効果を実感している点は、「知名度が向上した」、「やりがいが増加した」がそれぞれ 50.0%と最も多く、次いで、「問い合わせが増えた」が 30.0%となっている。

7. その他

〔1〕地球温暖化や異常気象などのリスクへの対応として必要なこと

問21 地球温暖化や異常気象などのリスクへの対応として、今後、何が必要とお考えですか。【自由記述】

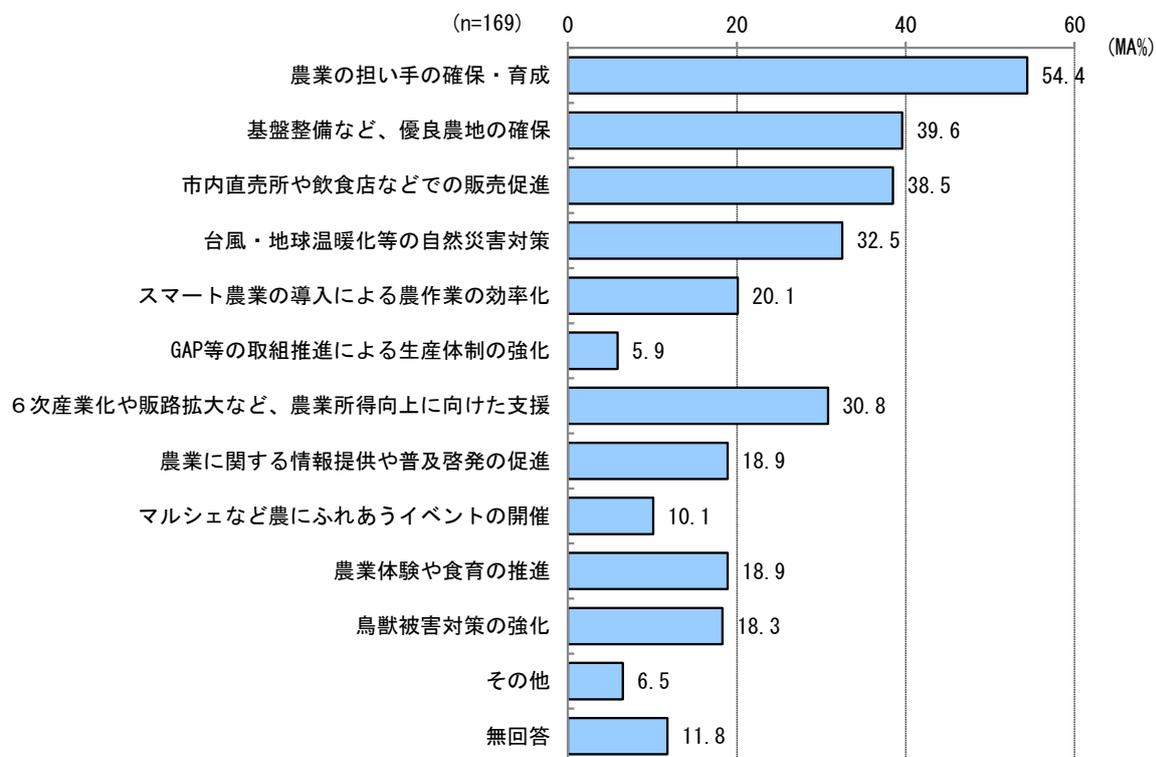
【地球温暖化や異常気象などのリスクへの対応として必要なこと】※意見は抜粋

【品種改良 26件】
温暖化に強い米や野菜品種の開発。肥料や農薬の指導。
高温に強い品種の選定。
病気や暑さに強い品種の紹介指導をしてほしい。
夏場栽培の野菜の品種が必要。
気候、風土に対応した作物、品種の開発。
暑さに強い品種へ改良していくこと。
気候変動に合った品目の選択。
【品種の分散 4件】
作物品種の分散。
米の作期の分散化。
【水路の整備 12件】
ゲリラ豪雨のたびに水路があふれるため古い水路の整備が必要。
水害対策のための水路の整備。
排水路の整備定期実施（業者による）。
ほ場整備後長年経過し、ほ場の地盤が沈下していて大雨の後等の排水に困っている。
住宅と農地との狭間なので治水対策を行って欲しい。
急激な宅地開発で、河川の整備が追い付いているのか不安。
【施設の強化 5件】
大型台風によるハウスの被害が心配。ハウスの補強が必要であり、資金がいる。
施設栽培農家への施設強化支援（方法と支援金）。
【保険の充実 8件】
農作物の被害が出た時の充実した共済補償の拡充。
異常気象により野菜等生産できなかった場合の保証制度の確立と紹介をしてほしい。又安定した生活をするため、社会保証（年金や保険）をお願いしたい。
共済保険加入を進められているが加入するには条件があり高齢者には加入しづらい。
【温暖化対策 5件】
地球温暖化の削減を推進。
行政による定期的なSDGsの研修。
【その他 21件】
スマート農業の推進。
害虫被害が増加してきている。指導してもらえる体制があれば良い。
農業者からでる廃物ごみとかビニールとか無料で処理をお願いしたい。
今までなかった大雨や夏の気温の異常な高さ等農作業に大きな変化がここのところ感じられる。

〔2〕草津市の農業振興のために、力をいれるべき取り組み

問22 草津市の農業振興のために、どのような取り組みに力をいれるべきと思いますか。
【〇はあてはまるものすべて】

【草津市の農業振興のために、力をいれるべき取り組み】



草津市の農業振興のために、力をいれるべき取り組みは、「農業の担い手の確保・育成」が54.4%と最も多く、次いで、「基盤整備など、優良農地の確保」が39.6%、「市内直売所や飲食店などでの販売促進」が38.5%、「台風・地球温暖化等の自然災害対策」が32.5%、「6次産業化や販路拡大など、農業所得向上に向けた支援」が30.8%となっている。

〔3〕自由意見

問23 草津市の農業について感じていることを御自由に御記入ください。【自由記述】

【自由意見】※意見は抜粋

【耕作放棄地の増加について 8件】
田畑の放棄田の整備の必要性を感じる。
田んぼの畦の草が伸び放題でほとんど草刈りされていない田や、全く耕作されず荒れ放題の田を見かけることがあるので、市からも指導なり支援がいただけるといいかなと思います。
引き受け手がない小規模農地の有効活用がないため、雑草が伸び放題の田が増えていく。
基盤整備されていない10a未満の農地が多く、面的な拡がりがない、又、農地が虫食い状に宅地化されている。このような状態で近隣住宅地への騒音等で農業がしにくい環境にあるのが現実である。このままでは早晚耕作荒地となるのではないかと危惧される。
高齢化による空ハウスが増える。ハウスを借りるにも修繕が必要で金がいる。空ハウスが増える事によって草や虫が増え回りに被害が及ぶ。
農業している人の高齢化が進んで、休耕地が増えてきている。荒地にならない様に、担い手とうまくバトンタッチできる事を希望している。
【住宅地の増加について 9件】
近隣に住宅が迫っており、農業の危機を感じている。
農地へのごみのポイ捨てが目立つように思う。何か対策はないのでしょうか。
住宅地工業地の排水対策が考えられなく大雨が降れば真っ黒な水が流れている状態です。自然を守る農地の確保を続けること。
市街化地域に指定され農業の収入で固定資産税都市計画税の支払いは大変苦しい、又、田んぼにごみのポイ捨てをされて困っています。都市化されたなかの緑地として税金を免除されたりゴミ捨て禁止看板の設置などを考えていただきたい。
住宅開発及び事業所開発など隣地田は育成が悪く農具の操作が困難であり減産している。
住宅街が近くにあり、農産物を直販するのにもってこいの地域だと思います。もっと色々な農家が自分の軒先で販売をすればおもしろい。
【担い手の育成について 7件】
若者の後継者不足、20代、30代が農業に興味を持つような取り組みが必要。
担い手や新規就農者に対する市独自の支援対策が不足しているように思います。
新しい担い手を確保しないと、いまのメンバーだけでは草津の農地を守っていけない。
近年新しい家（若い方）が多くなり、その人たちの中には農業に関心を持っておられる方もあり。その人たちにお手伝いしていただき自分で作ったお米を食べる満足感を味わっていただく、高齢の方の知識や経験を教えていただき、協力し合って農業を継続していけたらと思います。
町内にも空き家が増えつつある。空き家の利用をして若い人々に兼業農家をしてもらい、活躍してくれればいいと思います。
【法人化について 4件】
より法人化を進め、農地の集積化を図り、経営を安定させるべき。
企業による農業参入の推進をもっと積極的にしてはどうか。
大規模耕作をしている方の労力が足りないように思う。
後継者不足による法人への委託が益々加速しつつあるが、除草などなされていない状態であると思われる。景観面、防災面など、土地を守る意識向上が必要。

【中小規模農家への支援について 3件】
大規模、法人化に特化した対策でなく兼業農家の生き残る、農業振興対策が必要。
小規模農家でも継続して耕作などを維持して行こうとする応援対策。大型農家育成（法人化）と小規模農家の継続とバランスの取れた農政活動。
中小規模農家への支援をお願いしたいと思います。
【販売方法や地産地消につい 8件】
安定した価格の売り先さえあればいくらでも安心して生産することができます。浮き沈みの激しい市場出荷だけに頼らなくてよい販売ルートをJAと連携してつくって欲しい。人口増加している草津市で草津の野菜を草津の人々に食べていただくことほどの喜びややりがいはない。
草津市は人口増加の町なので消費圏でもあると考えている。
ブランド農産物も必要と思うが、消費はポピュラーな野菜白菜、キャベツ、大根、ナス、キュウリ、人参、などを生産して地元で消費する。地産地消がいいと思う。
草津市で作った農作物を市内、県内で消費出来るシステムがあるとよい。集落にまわり、店へ配達、宅配市場みたいなのはどうでしょうか。
草津ブランドに水菜や山田ネズミ大根を加えるべきでは。出荷量、質的にもブランドと呼ぶべきです。
庭先販売での規制を緩和してほしい。
【その他 23件】
食糧自給率の問題もありますが自然を残すことが大切です。
農業がかつこよくて、利益に繋がるということが実践される必要があると思います。そしてその可能性が草津市に十分にあると考えています。自然も多く、人口もそこそこというのが良いと思っています。IT、AIの活用も大事だと思います。
10aあたり固定資産税が20万も必要になる市街化農地でだれが農業を続けるか。
魅力を感じる農業を目指していただきたい。
農薬を使用しないため、虫の食った野菜の方が、健康のためにいいと指導し意識を高めて欲しい。
生産者同士が切磋琢磨し意見交換できる場がない。技術議論のできる場（サークル、発表会、支援）を設けていくべきと考える。
今後は良質米生産重視よりも多収米生産に向けた検討の方が重要でないかと考えている。
生産量にこだわらず美味しいお米、野菜を作る生産者が増えるといいと思います。

Ⅲ. ヒアリング調査の概要

1. 調査目的

草津市農業振興計画の策定にあたり、市内のスーパーやホテル、旅館を経営する方から農産物の流通や消費に関する意見を把握し、計画策定の基礎資料として利用するために実施。

2. 調査設計・回収結果

	種類	回答件数
調査対象と 回収結果	小売店	14 件
	ホテル・旅館	6 件
	J A	1 件
調査期間	令和 2 年 12 月～令和 3 年 3 月	
調査方法	電話による聞き取り調査	

IV. ヒアリング調査結果

1. 結果の概要

〔1〕小売店

①草津産農産物の取り扱いについて

取り扱っている店舗の主な回答

●地場産物が好まれている

- ・滋賀県人は地元のを好む傾向があると考え、今後も地場産物を取り扱う見込みである。
- ・地場産コーナーがそれなりに人気であり、今後も取り扱う見込みである。
- ・地場産物の取り扱い意向は極めて高く、どこで誰が作っているかがわかり安心を生むため、お客様のニーズとして強い。
- ・野菜は地場産コーナーで取り扱っており、草津メロンは期間限定でコーナーを作る。草津メロンほど人気があるものは今のところない。

取り扱っていない・不明店舗の主な回答

●本社の意向

- ・地場産物を取り扱う場合、本社に申請が必要であり、手間が掛かるため行動に移しづらい。
- ・本社から地場産を取り扱う許可が下りれば地場産のコーナー等を実施してみたい。

●産地を優先していない

- ・滋賀県産、草津市産というよりも値段と品質で決めているため、地場産物の取扱いは不明。
- ・産地を表に出すよりディスカウントを売りにしている店舗であり、本社方針もあることから、店舗単体で実施は難しい。
- ・もし滋賀県産、草津産のものが、他の産地より質や値段が良ければ、コーナーで取り扱っても良い。

②地場産物を販売する上での課題について

●安定供給が難しい

- ・商品が安定供給でないので、お客さんが付かない。生産者の付加価値を野菜ではそこまで消費者に伝わらない。
- ・地場産物の供給が不安定であり、売り場を維持することができない。種類が少なく、偏りがある。
- ・地場産物は応用が利かない。その商品がない時に別の産地のものを代理で置くことが地場産コーナーではできない。

●特徴がない

- ・地場産とそうでないもので違いや特徴がないため、付加価値を見い出してほしい。
- ・質と量、価格のトータルバランスが重要であり、他の産地でよい質・量があると難しい。

●本社の意向が必要

- ・地場産物の取扱いは本社申請が必要であり、その手間で後回しとしている。
- ・基本的に本社方針に従うため、店舗独自で動くことが難しい。

●その他

- ・個人農家と直接やり取りは使用禁止の農薬等を扱っている可能性もあり、リスクが高く、中規模大規模農家や、農協、業者を通してのやり取りでないと難しい。なお、後者は、ある程度の販売数を見込めないと厳しいため、当店では難しいと考える。

〔2〕ホテル

①草津産農産物の取り扱いについて

取り扱っている店舗の主な回答

- ・現在は、コロナの状況下にあるため、温めるだけでよい加工食品を仕入れているが、以前は地場産を仕入れていた。会社の方針として、なるべく地場産物を取り扱うこととなっており、今後もそれに従う見込みである。

取り扱っていない・不明店舗の主な回答

- ・食品関係は、本社の指示に従っているため、現状では取り扱う予定はない。
- ・ホテル内の施設に仕入れ方法を任せており、特に地場産を優先して扱っていない。

②地場産物を販売する上での課題について

- ・調理済の朝食のみを提供しているため、食材の取り扱い自体が少なく、地場産利用の予定はない。もし利用するなら、安価であることや、調理済で提供してもらえることが重要となる。
- ・流通が課題であり、地場産物を取り扱う人と契約しても配送手段がない。
- ・地場産物のコストが高いことが課題である。
- ・そもそも取り扱う方針がない。

資料3 草津市附属機関運営規則（抄）

（趣旨）

第1条 この規則は、草津市附属機関設置条例（平成25年草津市条例第3号。以下「条例」という。）別表第1に掲げる市長の附属機関（別に定めるものを除く。以下「附属機関」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（委員）

第2条 附属機関の委員は、別表第1の委員資格者の欄に掲げる者のうちから市長が委嘱し、または任命する。

（任期）

第3条 附属機関の委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 別表第2に掲げる附属機関の委員の任期は、前項本文の規定にかかわらず、それぞれ同表の任期の欄に掲げるとおりとする。

（委員長等）

第4条 附属機関に委員長および副委員長を置く。

2 前項の規定は、委員長の名称に会長その他これに類する名称を、副委員長の名称に副会長その他これに類する名称を用いることを妨げるものではない。

3 委員長（会長その他これに類する名称である場合を含む。以下同じ。）および副委員長（副会長その他これに類する名称である場合を含む。以下同じ）は、委員の互選によりこれを定める。

4 委員長は、附属機関を代表し、会務を総理する。

5 副委員長は、委員長に事故があるときまたは委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

6 委員長および副委員長とともに事故があるときまたは委員長および副委員長がともに欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

7 別表第3に掲げる附属機関の委員長および副委員長は、第3項の規定にかかわらず、それぞれ同表の委員長および副委員長の欄に掲げる者をもって充てる。

（附属機関の会議）

第5条 附属機関の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長、副委員長および前条第5項により指名された委員の全てが不在の場合は、市長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

（定足数および議決の方法）

第6条 附属機関の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

3 前2項の規定にかかわらず、別表第4に掲げる附属機関の定足数および議決の方法は、それぞれ同表の定足数および議決の方法の欄に掲げるとおりとする。

（関係人の出席等）

第7条 附属機関は、必要と認めるときは、その議事に関し専門的知識を持つ者または関係人を出席させ、説明または意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(分科会等)

第9条 条例第3条第2項の規定により、別表第5に掲げる附属機関に、それぞれ分科会等の欄に掲げる分科会、部会その他これらに類する組織（以下「分科会等」という。）を置き、担当事務の欄に掲げる事務を所掌させる。

(庶務)

第10条 別表第1に掲げる附属機関の庶務は、同表の所属の欄に掲げる所属がこれを行う。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか附属機関の運営に関し必要な事項は、委員長が附属機関に諮ってこれを定める。

付 則

(施行期日)

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

(草津市一般職員懲戒審査委員会規則等の廃止)

別表第1（第2条、第10条関係）

附属機関の名称	委員資格者	所属
草津市農業振興計画 審議会	(1) 学識経験を有する者 (2) 公募市民 (3) 農業従事者 (4) 農業委員 (5) 農地利用最適化推進委員 (6) 関係する団体から選出された者 (7) 関係行政機関の職員 (8) その他市長が必要と認める者	環境経済部農林水産課

資料4 草津市農業振興計画審議会 委員名簿

(敬省略・順不同)

区分	所属	氏名	備考
学識経験者	立命館大学食マネジメント学部 教授	松原 豊彦	会長
関係団体から選出	レーク滋賀農業協同組合 常務理事 草津地区担当	吉川 彰治	副会長
学識経験者	龍谷大学農学部食料農業システム学科 講師	金子 あき子	
公募市民	公募委員	小川 弥生	
	公募委員	中嶋 広美	
	公募委員	西岡 祐子	
農業者	草津市野菜出荷連絡協議会 会長	浜口 美芳	池田 茂幸 (～R3.5.18)
	指導農業士	田中 治嗣	
農業委員	草津市農業委員	堀 裕子	
最適化推進委員	農地利用最適化推進委員	中西 真由巳	
関係団体から選出	滋賀県立湖南農業高等学校 校長	清水 順二	井上 升二 (～R3.5.18)
	草津市観光物産協会 副会長	中嶋 慶喜	
	株式会社平和堂生鮮食品事業部青果課 バイヤー	箕浦 啓太	
関係行政機関	滋賀県大津・南部農業農村振興事務所 次長	森 真里	笠井 剛 (～R3.5.18)
	近畿農政局滋賀県拠点 地方参事官	宮本 博文	村野 浩昭 (～R3.5.18)

資料5 第2次草津市農業振興計画 策定の経過

1. 第1回草津市農業振興計画審議会

開催日：令和2年11月19日（木）

審議内容：（1）第2次草津市農業振興計画策定のポイントについて

- ・ 現行計画の成果と課題について
- ・ 計画策定にかかる背景について

（2）第1回草津市農業振興計画審議会にかかる御意見について

2. 第2回草津市農業振興計画審議会

開催日：令和3年 5月19日（水）

審議内容：（1）第2次草津市農業振興計画骨子（案）について

- ・ 市農業を取り巻く現状の課題、次期計画のポイント等について
- ・ 統計データ、アンケート・ヒアリング調査の結果概要について

3. 第3回草津市農業振興計画審議会

開催日：令和3年 8月27日（金）

審議内容：（1）第2次草津市農業振興計画（概要版）について

（2）第2次草津市農業振興計画（素案）について

4. 第4回草津市農業振興計画審議会

開催日：令和3年12月27日（月）

審議内容：（1）第2次草津市農業振興計画（素案）の確認について

資料6-1 諮問文

草農発第3712号

令和2年11月19日

草津市農業振興計画審議会会長 様

草津市長 橋川 渉

次期「草津市農業振興計画」の策定について（諮問）

平成21年3月に策定（平成28年3月改訂）した草津市農業振興計画（改訂版）が令和3年度に目標年度を迎えるにあたり、次期「草津市農業振興計画」を策定したいので、これについて御意見を賜りますようお願い申し上げます。

諮問の趣旨

本市では、「草津市農業振興計画（改訂版）」に基づき、令和3年度までを計画期間として、農業振興にかかる各種施策を推進してきましたが、国や県の上位計画や、「第6次草津市総合計画」等の関連計画との整合を図るとともに、農業をめぐる社会情勢の変化や市民・農業者ニーズなども踏まえたうえで、令和4年度から11年間の次期「草津市農業振興計画」を策定することとしており、これについて御意見を求めるものです。

資料6-2 答申文

草農審発第1号
令和4年1月20日

草津市長 橋川 渉 様

草津市農業振興計画審議会
会長 松原 豊彦

第2次草津市農業振興計画策定について(答申)

令和2年11月19日付け草農発第3712号で諮問のあった事項について、当審議会において慎重な審議を重ね、審議結果をとりまとめましたので、下記のとおり付帯意見を添えて、別添のとおり答申いたします。

付帯意見

農業を取り巻く環境は厳しく、草津市においても農業者の高齢化や減少が進んでいる状況である。このことから、行政、農業者、市民や関係機関等が緊密に連携し、「第2次草津市農業振興計画」の取組を着実に推進し、農業振興を図られたい。

また、毎年度、PDCA サイクルを活用し、進行管理によって効果的に計画を推進するとともに、各取組に係る必要な予算の確保に努められたい。



草津市環境経済部農林水産課

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号
TEL: 077-561-2347 FAX: 077-561-2496
URL: <https://www.city.kusatsu.shiga.jp/index.html>
E-mail: norin@city.kusatsu.lg.jp

